

オーナーズ型マイナー（副専攻プログラム）



2023

オーナーズ型マイナー
（副専攻プログラム）

新潟大学

目次

新潟大学の副専攻制度について

- (1) はじめに 2
- (2) 副専攻制度とは? 2
- (3) どんなプログラムがあるの? 3
- (4) 副専攻を修得するメリットは? 4

1. 副専攻プログラム履修開始から認定証書授与までの流れ 5

2. 副専攻プログラム履修開始から認定証書授与までの詳細

- (1) ガイダンスへの参加・副専攻パンフレットについて 6
- (2) 副専攻プログラムの授業科目の履修手続について 6
- (3) 副専攻履修証明書の発行について 8
- (4) 副専攻の認定申請条件と認定申請方法について 9
- (5) 学務情報システムの活用について 10

3. 各副専攻プログラムの紹介

- 環境学 12
- MOT基礎（特許・経営及び製品開発基礎コース） 13
- 芸術学 14
- 外国語（ドイツ語） 15
- 外国語（英語） 16
- 外国語（フランス語） 17
- 外国語（コリア） 18
- 外国語（ロシア語） 19
- 外国語（中国語） 20
- 地域学 21
- GIS（地理情報システム）リテラシー 22
- 法律学 23
- 政治学 24
- 経済学 25
- 電子・情報科学 26
- 統合化学 27
- 医学物理学基礎 28
- 学校教育実践 29
- データサイエンス 30

4. よくある質問FAQ 31

新潟大学副専攻の認定に関する規則 37

令和5年度 副専攻プログラム代表教員連絡先・授業時間割 39

令和5年度 副専攻入門科目等一覧 40

問い合わせ先・案内図 41

新潟大学の副専攻制度について

この冊子では、オナーズ型マイナー（副専攻プログラム）について説明します。
これ以降の「副専攻（制度）」とは、オナーズ型マイナーのことを指します。

(1) はじめに

皆さんは、自分の将来を含めて興味・関心のある専門分野の学びを深めることを目的として、新潟大学に入学されたことと思います。一方、社会の課題に目を向けてみると、一つの学問分野だけでは解決することが難しいような、複雑な問題が数多くあることに気づくのではないのでしょうか。そして、そのような課題を解決していくためには、自分の知的関心を広げ、複数の学問分野を横断的に学んでいく必要があります。

そこで新潟大学では、平成16年度から全国の大学に先駆けて「副専攻制度」を導入し、豊富な専門分野を持つ総合大学の利点や、自分の所属していない学部の授業を履修できる教育システムの特徴を活かし、「第二の専門分野」を認定する制度を設計しました。さらに令和2年度からは、この副専攻制度を発展させ、全学分野横断創生プログラム（Niigata University Interdisciplinary Creative Education Program; NICEプログラム）を開始しました。

NICEプログラムは、皆さんの興味・関心や問題意識に応じて学部の専門分野（メジャー）と他分野（マイナー）を組み合わせる学修仕組みです。NICEプログラムのマイナーには「オナーズ型マイナー（副専攻プログラム）」「学修創生型マイナー」「パッケージ型マイナー」の3種類があり、このパンフレットでは**オナーズ型マイナー（副専攻プログラム）**について説明します（「学修創生型マイナー」と「パッケージ型マイナー」については、「全学分野横断創生（NICE）プログラム（<https://www.iess.niigata-u.ac.jp/niceprogram/>）」をご覧ください）。

「オナーズ（honors）」とは、「優秀な学生を対象とした」という意味で、マイナー学修を希望する方の中でも特に意欲の高い学生を対象としています。新潟大学では知的好奇心や社会課題の解決意欲に溢れた学生の皆さんの期待に応える豊富な教育資源があります。また、このような皆さんの挑戦を支援する心強いサポートの仕組みとして、アカデミック・アドバイザーの支援があります（<https://www.iess.niigata-u.ac.jp/niceprogram/aa.html>）。ぜひこれらの仕組みをフル活用して、意義深い学生生活を送ってください。

(2) 副専攻制度とは？

所属学部・学科の学位とは別に、特定分野の学習成果を認証する制度です。

専門分野の勉学の成果は、卒業時に「学士」という学位の称号を得ることで、社会的に認知されます。しかし、従来、専門以外の分野について、学習成果を認証する制度はありませんでした。例えば法学部の学生が社会的関心に触発されて、一定水準以上の環境科学の勉学を行ったとしても、社会的に認知される何らかの認証を受けることはできませんでした。副専攻制度では一定の条件をクリアした学生に対して、大学で特定分野を学んだことの証明として公的な認定である「副専攻認定証書」を授与する制度です。

当該専門分野以外の科目を一定単位数以上取得した学生に、
その勉学の認証として、**副専攻認定証書**を授与します。

学生は卒業にあたって副専攻認定の申請を行います。定められた基準を満たしていることが確認できれば、専門分野に関わる「学士」の学位記に加え、分野を明記した「副専攻」を認定する文書を発行します。先の例のような学生は、卒業時に「学士（法学）」の学位に加えて、大学で環境科学を学んだ公的な証明として、「環境学」の副専攻認定が受けられます。副専攻認定に触発されて、自主的に環境学分野で一定水準以上の学習をした法学部学生は、きっと社会の中でその経験を生かしていけるはずです。

(3) どんなプログラムがあるの？

副専攻には「課題別副専攻」と「分野別副専攻」の2つのタイプがあります。「課題別副専攻」は、全学で開講されている科目を分野横断的に統合した「テーマカリキュラム」です。「分野別副専攻」は特定の学問分野の授業科目から作られたプログラムです。

課題別副専攻 (11プログラム)
環境学
MOT基礎 (特許・経営及び製品開発基礎コース) ◆
芸術学 ◆
外国語 (ドイツ語)
外国語 (英語)
外国語 (フランス語)
外国語 (コリア)
外国語 (ロシア語)
外国語 (中国語)
地域学 ◆
G I S (地理情報システム) リテラシー

分野別副専攻 (8プログラム)
法律学 ◆
政治学 ◆
経済学
電子・情報科学
統合化学
医学物理学基礎
学校教育実践
データサイエンス

◆印のあるプログラムは2022年度以降入学者 (3年次編入生は2023年度以降入学者) は認定の対象となりません。認定希望者は、2023年度までに入門科目を履修し、原則として2024年度までに認定を受けてください。

* 分野水準表示法

新潟大学で開講されている多くの科目には、「分野」と「水準」を示したコードが割り当てられています。各開講科目には、その科目の「分野」と「水準」がそれぞれ2桁の数字で示されます。

水準コードは、10の位で「聴講科目対象者」を、1の位で「授業の水準」を示します。履修の計画を立てる場合、参考になるのは水準です。

3は「学士課程の基礎的水準」、4は「学士課程における専門の中核的水準」ですので、履修のはじめの段階では3の科目を、かなり進んだ段階では4の科目をとった具合に、選択の一つの目安として活用できます。

■ 分野コード表

分 野		分 野		分 野		分 野	
10	情報	36	経済学	53	建築学	75	新潟大学個性化科目
13	芸術	37	経営学	54	材料工学	76	大学学習法
14	健康スポーツ	38	社会学	55	プロセス工学	77	課題研究
15	生活科学	39	心理学	56	人間医工学	80	基礎医学
16	科学技術社会論	40	教育学	57	生物学	81	臨床医学
17	博物館学	41	数学	60	農学	82	社会医学
28	哲学	43	物理学	61	農芸化学	85	看護
29	文学	44	地学	62	林学	86	福祉
30	言語学	46	化学	64	農業経済	87	境界医学
31	史学	47	応用化学	65	農業工学	90	基礎歯学
32	人文地理学	49	工学基礎	66	畜産学	91	臨床歯学
33	文化人類学・民俗学	50	機械工学	70	英語	92	社会歯学
34	法律学	51	電気電子工学	71	外国語	99	その他
35	政治学	52	土木工学	74	キャリア意識形成		

■ 水準コード表

10の位の数字		1の位の数字	
0	全学の学生を受け入れることが可能科目	1	大学学習法など、学士課程での学習を円滑にするためのもの
1	当該学部 (学科) の学生に限られる科目	2	高等学校との接続を意識した水準 (リメディアル)
2	教員免許など資格に関わる科目	3	学士課程の基礎的水準
		4	学士課程における専門の中核的水準
		5	学士課程における専門の発展的内容で大学院との接続水準

(4) 副専攻を修得するメリットは？

● 幅広い知識を得られる。

学生の皆さんは、自分の興味のある分野、将来なりたい職業を考えて所属している学部、主専攻プログラムを選んだことと思います。しかし、必ずしもその分野だけに興味があるわけではないのではないでしょうか。副専攻を活用することで主専攻プログラム以外の関心のある分野を体系的に学ぶことができ、修了認定も受けることができます。

卒業生の声（卒業生アンケートより）

専門以外の教養科目は「卒業のための単位を取るための講義」になりがちですが、副専攻で勉強の方向性が決まっているとモチベーションは維持しやすいと思いました。やはり、教養科目も単位のために無秩序に講義を受講するより一つ目標があったほうが良いと思います。

● 主専攻の学習を補うことができる。

各主専攻プログラムでは到達目標が定められており、その目標を達成するためのカリキュラムが作成されています。学生はカリキュラムにそって授業を受講していきませんが、副専攻は上手に活用することで到達目標を達成する手助けになります。例えば、「外国語（英語）」はどの主専攻プログラムでも必要でしょう。「MOT基礎」は工学部の学生にとっては重要な知識となることと思います。

卒業生の声（卒業生アンケートより）

主専攻である経済学を学ぶにあたり、地域経済を主に学びたいと思い地域学の副専攻を履修した。その際、主専攻に絡めながら副専攻を学んだが、フィールドワークなどが多い地域学の分野では、座学では学べないことや人とのつながりなどを体感できた。また、他学部の講義を受けることで、多角的な視点や所属学部以外の大学内の様子を見ることができ、自身の大学生生活に大きく役立った。

● 就職活動に活用することができる。

就職活動ではエントリーシートや面接などで大学で何を学んできたか聞かれる場合があります。そのようなときに主専攻プログラムだけではなく、副専攻プログラムで幅広い知識を学んだことをアピールすることができるでしょう。

就職活動で副専攻をアピールしたい方は、「副専攻プログラム履修証明書」を3年次、4年次に発行することができます。（証明書発行方法は8ページを参照）

卒業生の声（卒業生アンケートより）

頑張って副専攻を取ってよかったと思っています。就職活動の時にネタにもなったし、自分自身の自信にもつながりました。

企業の声（企業アンケートより）

就職してから必ず役に立つものと思います。弊社も、御校の学生を採用する際には参考にさせていただきたいと思います。

1. 副専攻プログラム履修開始から認定証書授与までの流れ

① ガイダンスへの参加・副専攻パンフレット（本冊子）を入手する

毎年、学期始め（4月、10月）にガイダンスが開催されます。ここでは、副専攻履修に関する大事なお知らせがありますので、なるべく参加するようにしましょう。

また、副専攻対象の科目は、開講状況等により年度によって変更になることがあります。**入学年次から卒業年次まで、各年度の副専攻パンフレット（本冊子）を手に入れ、履修を進めましょう。**

（詳しくは6ページ 2 (1) を参照のこと。）



② 副専攻プログラムの授業科目の履修手続（1年次～3年次）

まず、各副専攻プログラムの内容・認定条件などを確認してください。そのうえで、各プログラムに登録されている科目一覧から卒業時まで**24単位**修得することを目指します。

★3年次の末までに「入門科目」を履修しておきましょう。

★副専攻プログラムは1年次～3年次のどの時点からでも開始できます。

★副専攻プログラムの授業科目の履修申請は、通常の授業科目の履修申請と同じです。

（詳しくは6ページ 2 (2) を参照のこと。）



③ 副専攻履修証明書の発行（3年次以降）

就職活動などで、副専攻の履修をアピールしたい場合などは、3年次以降、「**副専攻履修証明書**」を発行することができます。

（詳しくは8ページ 2 (3) を参照のこと。）



④ 副専攻の認定申請と審査（4年次12月～2月）

副専攻の認定を受けようとする学生は、卒業年次の所定の期間に認定申請を行わなければなりません。
（詳しくは9ページ 2 (4) を参照のこと。）

- ・認定申請に関するお知らせを学務情報システムにて通知します。必要書類を学務部教務課連携教育支援事務室（場所は41ページ参照）に提出してください。
- ・いくつかのプログラムでは、認定審査の際に**最終レポート**や**課題の提出**が求められています。学務情報システムにて通知しますので注意してください。



⑤ 副専攻認定証書の授与（4年次3月）

認定審査を通過した学生に対して、「**副専攻認定証書**」を卒業式において授与します。

2. 副専攻プログラム履修開始から認定証書授与までの詳細

(1) ガイダンスへの参加・副専攻パンフレットについて

毎年、学期始めにガイダンスが開催されます。ガイダンスの日程は学務情報システムや、掲示板などでお知らせします。

また、副専攻パンフレット（本冊子）には、副専攻の認定を目指す上で重要なことが書かれています。熟読するようにしましょう。

★副専攻対象の科目は、開講状況等により年度によって変わる場合があります。そのため、入学年次から卒業年次まで各年度の副専攻パンフレットを手に入れ、履修を進めましょう。

副専攻パンフレットは、学務情報システムからも閲覧可能です（11ページ参照）。また、学務部教務課連携教育支援事務室において、随時配布しています。

(2) 副専攻プログラムの授業科目の履修手続について

履修開始にあたって

12ページからの各プログラムの紹介ページを見ながら、実際に履修したい副専攻プログラムの検討をします。どの副専攻プログラムにするか迷っている場合は、**興味のあるプログラムの科目を同時に履修することから始め、最終的には1つのプログラムの認定を目指すこと**をお勧めします。

また、はじめに「**入門科目**」(※注)を履修しましょう。入門科目では、この副専攻では何を学ぶのかや履修にあたっての注意事項などの説明も行われます。ほとんどの入門科目は、どの学部学生でも履修できるようにするため、**オナーズ・タイム**（お昼休みの時間：11時55分～12時45分）に開講されています。

※注：外国語（ドイツ語）、外国語（中国語）の入門科目は2年次以上の学生のみ履修可能です。

1年次学生は履修できません。また、MOT基礎、芸術学、地域学、法律学、政治学は2021年度以前の入学者（編入学生は2022年度以前入学者）のみ認定対象となります。

★副専攻プログラムの授業科目の履修は、履修登録期間中に学務情報システムから履修登録します。

★副専攻履修開始にあたって、学務情報システムでの「マイナー学修」申し込み（エントリー）が必要です。卒業するまでに認定条件を満たすように、副専攻パンフレットに掲載されている授業科目を履修してください。

履修計画を立てよう

次のことに注意しながら、履修計画を立てましょう。

- ・3年次末までに入門科目を履修してください。
- ・卒業年次までに認定を目指す副専攻プログラムの登録科目を24単位以上修得することを目指してください。
- ・**プログラム独自の認定条件を確認**してください。
- ・主専攻等（皆さんが所属する学部での専門の授業）の履修がおろそかになることがないように、**最終的にオナーズ型マイナーが認定されるのは一人ひとつまで**としています。他のマイナー（学修創生型、パッケージ型）は、複数のマイナーを認定可能です。

★副専攻プログラムで何単位を修得済みかは、学務情報システムの「マイナー学修（副専攻）成績確認表」から確認できます。（詳しくは10ページ）

★参考までに過去の副専攻認定学生の履修例を以下に掲載します。
副専攻プログラム修了生の履修例は、学務部教務課連携教育支援事務室で閲覧可能です。

副専攻「環境学」修得単位：27

経済学部 経済学科

分類	属性	水準	科目名	単位	修得年度	履修学年
コア	R	03	環境学入門	1	2015	1
コア	B	02	生産環境科学概論 I	2	2015	1
コア	C	03	保全生態学	2	2015	1
コア	A	04	生命環境倫理学	2	2016	2
コア	R★	04	環境学実習	1	2016	2
コア	B	03	くらしと環境	2	2016	2
コア	C	04	多様性生物学A	2	2016	2
コア	C	04	多様性生物学B	2	2016	2
関連	B	04	都市衛生施設工学	2	2016	2
コア	C	02	生産環境科学概論 II	2	2016	2
コア	R	05	環境学演習	1	2017	3
コア	A	03	倫理学入門	2	2017	3
コア	A	04	環境経済システム論 I	2	2017	3
関連	C	03	野生植物生態学	2	2017	3
関連	C	04	環境政策論	2	2017	3

副専攻「外国語（コリア）」修得単位：25

教育学部 学習社会ネットワーク課程

分類	属性	水準	科目名	単位	修得年度	履修学年
コア	A	03	朝鮮語スタンダード I	3	2015	1
コア	A	03	朝鮮語スタンダード II	3	2015	1
コア	R	03	コリア学入門	1	2016	2
コア	R	03	国際交流	2	2016	2
コア	C	03	コミュニケーション・朝鮮語 B	2	2016	2
関連	B	03	歴史文化学入門 A	2	2016	2
コア	C	03	コミュニケーション・朝鮮語 D	2	2016	2
コア	C	03	歴史学 Q	2	2016	2
コア	C	03	歴史学 I	2	2016	2
コア	C	03	領域融合・超域科目 I	2	2016	2
関連	B	03	日本・アジア言語文化入門 B	2	2016	2
関連	B	03	平和を考える A	2	2017	3

履修中にわからないことがあれば、プログラムの代表教員（連絡先は39ページ参照）にアドバイスを受けましょう。

特に入門科目は主に代表教員が担当しているので、わからない点は、そこで解決するようにしましょう。また、学務部教務課連携教育支援事務室が事務的な窓口を担当しています。

問い合わせ先 TEL：025-262-6309

MAIL：kyoumu-minor@ge.niigata-u.ac.jp

ご不明な点はお気軽にご連絡ください。学務部教務課連携教育支援事務室の場所は41ページをご覧ください。

(3) 副専攻履修証明書の発行について

副専攻の修得が最終的に証明されるのは、卒業式で「副専攻認定証書」が授与されてからになります。

しかし、実際に**就職活動などで副専攻を履修していることをアピール**したいこともあるでしょう。そのために、「新潟大学副専攻プログラム履修証明書」(下図)が用意されています。以下の履修証明書の発行要件を満たした方は、学務部教務課連携教育支援事務室まで申請いただければ証明書を発行します。

※証明書発行までには3日程度かかります。

◎履修証明書発行要件

- (1) 学生本人からの「申し出」により発行する。
- (2) 発行対象は、第3年次生及び第4年次生とする。
- (3) 発行にあたっては以下の基準を満たすこと。
 - ・各副専攻プログラムの入門科目を履修済み、または履修中であること。
 - ・発行申請時までの全履修科目のGPA値が、2.5以上であること。
 - ・副専攻科目を12単位以上履修済み、または履修中であること。

新潟大学副専攻プログラム履修証明書

<p>新潟大学副専攻プログラム履修証明書</p> <p>新潟大学</p> <p>人文学部 人文学科</p> <p>3 年 新潟 太郎</p> <p>上記の学生は、本学が開設している下記の副専攻プログラムを履修中であることを証明します。</p> <p>副専攻プログラム名</p> <p>「 外国語 (中国語) 」</p> <p>年 月 日</p> <p>新潟大学教育基盤機構長 信濃 川之助 職印</p>

(4) 副専攻の認定申請条件と認定申請方法について

副専攻の認定申請をするには、卒業年次までに以下の条件を満たす必要があります。

【認定申請条件】

- ① 3年次末までに、各副専攻プログラムで定められた「**入門科目**」を履修すること。
- ② 副専攻プログラムの授業科目を**24単位以上**修得すること。
- ③ 卒業時の総修得単位数が、所属する学部の卒業要件単位数（**標準124単位**）+**12単位以上**であること。
- ④ 卒業時まで履修したすべての授業科目の**GPA*¹**が**2.5以上**であること。
- ⑤ **各プログラムが独自に定めた認定条件**を満たしていること。（各プログラムごとの認定条件は12ページからの各副専攻プログラムの詳細ページを参照してください。）

* 1 : G P A (Grade Point Average)

皆さんが受けた授業の成績の平均を示す指標です。以下の式で算出され、認定条件の「GPA2.5」は、各授業での成績平均75点に相当します。**GPAは、学務情報システムの「副専攻成績確認表」で確認できます（10ページ参照）。自分で計算する必要はありません。**

$$\text{GPA} = \frac{(\text{各授業科目の単位} \times \text{各授業科目のGP}) \text{の総和}}{\text{履修した各授業科目の単位数} \text{の総和}}$$

ここで、**GP**とは

$$\text{GP} = (\text{成績評価} - 50) \div 10$$

と定義します。ただし

$$\text{成績評価が60点未満の場合} \Rightarrow \text{GP} = 0$$

とします。

【認定申請方法】

上の条件を満たしている学生は、**卒業年次に**認定審査を受けることができます。

認定申請は認定申請期間中に以下の書類を学務部教務課連携教育支援事務室に提出します。認定申請期間は、例年12月中旬～1月中旬までのおおよそ1ヶ月の間です。

認定申請の詳細は、学務情報システムにて通知します。

- ・副専攻認定申請書
- ・マイナー学修（副専攻）成績確認表
- ・成績通知書

【副専攻認定証書の授与】

認定審査を通過した学生に対して、「副専攻認定証書」を卒業式において授与します。副専攻認定証書の授与が決定したのち（3月中旬頃）、各学生に学務情報システム等で通知します。

(5) 学務情報システムの活用について

学務情報システムには副専攻を履修していく上での手助けとなる機能が用意されています。その機能についてここで紹介します。

はじめに

学務情報システムにログインし、**履修**、**マイナー学修（副専攻）関連**と進んで下さい。よく利用する機能は、「マイナー学修（副専攻）成績情報参照」と「マイナー学修（副専攻）カリキュラム一覧」です。



①成績情報副専攻参照

「マイナー学修（副専攻）成績情報参照」では、**各副専攻プログラムにおける自分の単位修得状況を確認**することができます。

最終的に修了認定を受けるためには、**修得単位数が24単位以上**になっていなくてはなりません。

単位修得状況の詳細を確認したい場合は、画面①にてプログラムを選択することで、画面②で確認することができます。

画面①



副専攻
GPA

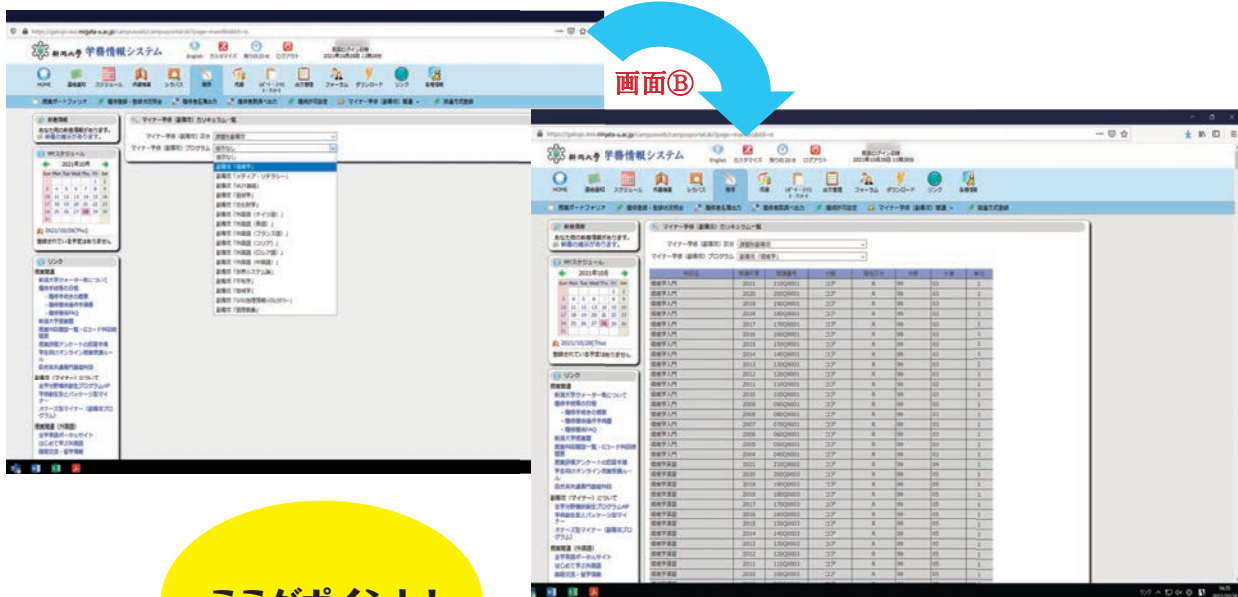
また、「マイナー学修（副専攻）成績確認表出力」をクリックすると認定申請時の必要書類である「**マイナー学修（副専攻）成績確認表**」(©)を確認・印刷できます。

「マイナー学修（副専攻）成績確認表」では、**自分のGPA**を確認できます。

② 「マイナー学修（副専攻）カリキュラム一覧

「マイナー学修（副専攻）カリキュラム一覧」では、実際に各副専攻プログラムの対象となる授業科目を確認することができます。画面④の「副専攻プログラム名」選択欄から希望の副専攻プログラムを選択すると、画面⑤にて各年度の授業科目が確認できます。

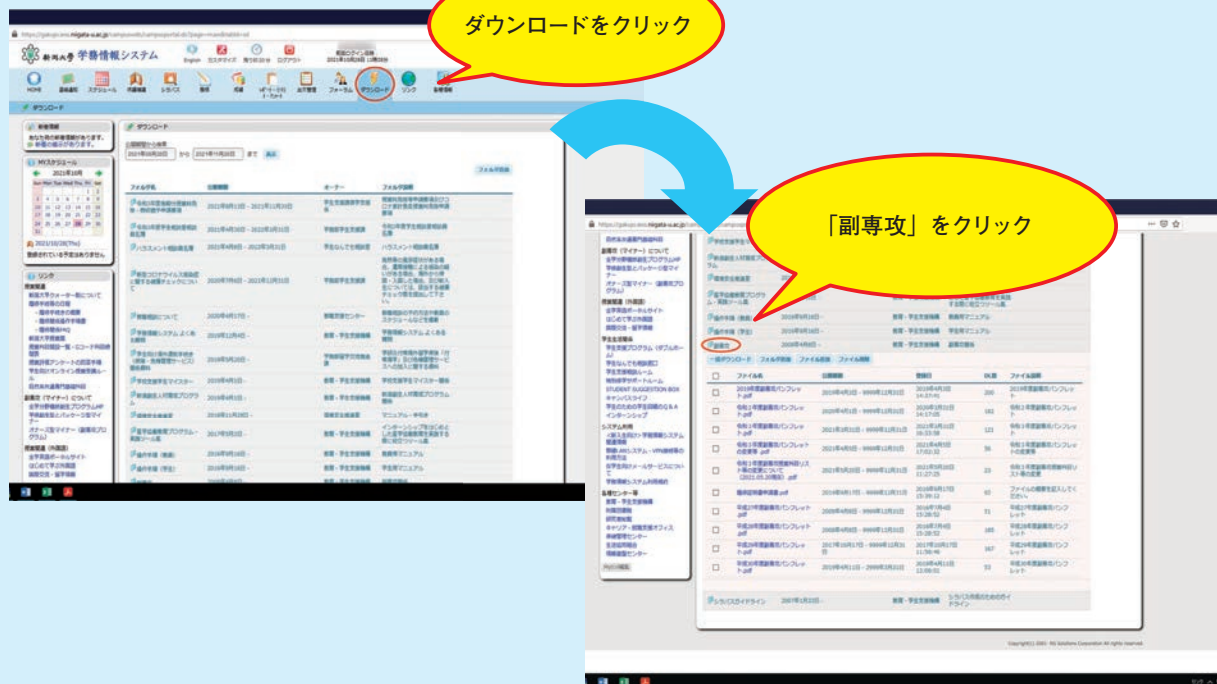
画面④



2 副専攻プログラム履修開始から
認定証書授与までの詳細

副専攻の各種資料を手に入れよう

副専攻では学務情報システムの「ダウンロード」を使ってガイダンスで配布した資料や各種申請書などを配布しています。副専攻パンフレットもこのページからダウンロードできます。





■プログラムの名称 「環境学」

概要	<p>環境問題は、地球システムの認識に始まり、社会の経済活動に至る多様な分野に関わる問題である。本副専攻では、主に理工農など自然系学部開設科目を活用して、幅広い分野に渡る環境問題への基礎理解を促すプログラムを提供する。</p>		
ねらい	<p>自然科学の諸分野（理学、農学、工学）で、「環境」がどのように取り扱われているかを理解する。また、人文社会学系列の分野で、「環境」がどのように取り扱われているのかを修得する。環境問題の本質を理解し、これらの問題を解決出来る能力を備えることをねらいとしている。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理学、経済学、法学基礎知識に基づいて環境を考えることができる。 2. 生活者の視点と地球規模の視点の両面で環境を捉えることができる。 3. 複数の環境問題について、複合的視点で議論することができる。 4. 複数の自然科学分野の基礎に立って、科学的視点で環境問題を考えることができる。 	副専攻 委員会委員	○関島 恒夫 吉川 夏樹 林 八寿子
認定条件及び評価の方法	<p>【各プログラム共通の認定条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本副専攻プログラムの「入門科目」を、「第3年次末」までに履修し、その単位を修得していること。 ・卒業時の総修得単位数が、所属する学部の卒業要件単位数に「12単位」以上を加えたものであること。 ・本副専攻プログラムが定めた授業科目から「24単位」以上を修得していること。 ・卒業時の全科目のGPAが、「2.5」以上であること。 <p>【各プログラム独自の認定条件等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・属性区分「A」、「B」、「C」の科目から、それぞれ「2科目」以上を修得していること。 ・コア科目から必修科目を含んだ、「12単位」以上を修得していること。 ・コア科目のうち、属性区分「A」、「B」、「C」の科目から、それぞれ「1科目」以上を修得していること。 ・「環境生物学野外実習C」、「環境学実習」のうち、いずれか「1科目」を修得していること。 ・理学部フィールド人材育成プログラム・自然環境科学プログラム・地質科学プログラム、農学部フィールド人材育成プログラム・流域環境学プログラムの学生は、本プログラムによる副専攻認定は行わない。（ただし、それらの学生の聴講を妨げるものではない。） 		
プログラムの紹介	<p>本プログラムでは、主に、自然科学系の分野で環境がどのように取り扱われているかを学び、環境問題の本質を理解することを目的としている。</p> <p>地球環境問題や資源のリサイクルなど、環境問題は今後の社会において重要な要素である。副専攻として環境問題を学ぶことは知識の幅を広げるだけでなく、自分の専門に関しても大きな影響を与え、新たな発想や解決法を見いだすきっかけになると考えられる。</p> <p>理系の学生はもちろん、特に「文系」の学生にも、是非、聴講して貰いたい副専攻である。</p> <div data-bbox="424 1451 1305 2092"> </div>		



重要 本プログラムは、2022年度以降入学者（3年次編入生は2023年度以降入学者）は認定の対象となりませんので、ご注意ください。

■プログラムの名称 「MOT基礎（特許・経営及び製品開発基礎コース）」

概 要	<p>組織経営と技術開発の両分野は、現代の日進月歩の企業社会において、大変重要な中枢部分を形成しており、両分野とも互いの基礎知識を有する人材確保を必要条件としている。</p> <p>そのような状況を背景として、本カリキュラムは、経済・法・理・工・農などの各分野で開設されている科目と、新しく開設する科目とを活用することとで、技術経営の基礎を修得できることを目的とした副専攻プログラムである。</p>
-----	---

ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ・特許取得に関わる手続きや方法を学ぶことで、特許取得に必要な専門知識が多様であることを理解する。 ・各自の主専攻も、他学部・他学科の開講科目の多くと密接に関連していることを理解する。 ・特許やその申請に対して理解を深めることで、特許申請や取得までの概要を習得する。
-------	--

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法律・技術・経営の知識を融合し、それぞれを有機的に活用することで、理系・文系の両面からの思考ができる。 2. ビジネス分野への貢献ができるようになる。 3. さらに上位にある「MOT関係の大学院」などへの入学のための基礎学力が身に付く。 	副 専 攻 委員会委員	○狩野 直樹 東瀬 朗
------	---	----------------	----------------

認定条件 及び評価 の方法	<p>【各プログラム共通の認定条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本副専攻プログラムの「入門科目」を、「第3年次末」までに履修し、その単位を修得していること。 ・卒業時の総修得単位数が、所属する学部の卒業要件単位数に「12単位」以上を加えたものであること。 ・本副専攻プログラムが定めた授業科目から「24単位」以上を修得していること。 ・卒業時の全科目のGPAが、「2.5」以上であること。 <p>【各プログラム独自の認定条件等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コア科目から、必修科目（属性区分「R」及び「A」の必修科目）を含む「12単位」以上を修得していること。 ・コア科目から、属性区分「R」の科目1単位、「A」の科目（必修2単位を含む）「4単位」以上および、「B」の科目「2単位」以上を修得していること。 ・所属学部開講科目以外の科目を、「10単位」以上修得していること。 ・入門科目「特許・経営および製品開発入門」を最初に履修することが望ましい。
---------------------	--

プログラムの紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・国際特許事務所でも活躍している現役の弁理士や企業のトップによる実践的講義を受講できます。 ・上記の講師と1対1での話し合いを行うことができ、講師の実際の経験談を聞くことができます。 ・文系理系を問わず、多数の学部の科目を修得することができ、総合大学ならではの恩恵を受けることができます。 ・以下は、この副専攻独自の国際弁理士や県内企業のトップによる講義風景で、学部や男女を超えて学生が受講しています。
----------	--





重要 本プログラムは、2022年度以降入学者（3年次編入生は2023年度以降入学者）は認定の対象となりませんので、ご注意ください。

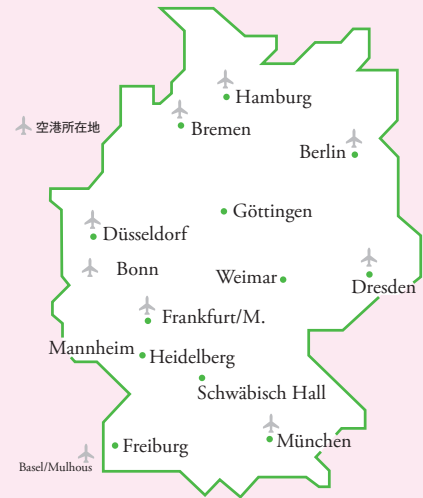
■プログラムの名称 「芸術学」

概要	芸術は時代ごとの価値観を表出し、人文系諸科学の背景ともなっている。また私たちの生活を潤し、内面を豊かにしてくれる精神生活の精華でもある。この副専攻では、人文学部・教育人間科学部・農学部・工学部などの人的資源を活用することによって、感性による鑑賞の対象としてだけでなく、学問の対象として芸術を据え直すことを通し、精神文化・造形文化の成り立ちを明らかにしつつ、人生をより豊かにするプログラムを提供する。		
ねらい	様々な授業を通して、芸術一般に関する知識を得、また感性を育てて、芸術が人間の生活にとってどのような価値を持っているかを認識できるようにする。また、そうして養った感性と知識によって、芸術作品に接した時に、その作品の客観的な価値づけを、自分の言葉で表現できることを目指す。		
到達目標	1. 芸術史について広く基本的な見識を有し、また芸術学の基礎理論に通じるようになること。 2. また、それを通して、芸術作品一般に対して一定の客観性を持った見解を述べられるようになること。 3. 特定の芸術分野に関して、専門家に準ずる知識を有し、その分野の作品について独自の見解を発表できるようになること。	副専攻 委員会委員	○廣部 俊也 細田あや子
認定条件 及び評価 の方法	【各プログラム共通の認定条件】 ・本副専攻プログラムの「入門科目」を、「第3年次末」までに履修し、その単位を修得していること。 ・卒業時の総修得単位数が、所属する学部の卒業要件単位数に「12単位」以上を加えたものであること。 ・本副専攻プログラムが定めた授業科目から「24単位」以上を修得していること。 ・卒業時の全科目のGPAが、「2.5」以上であること。 【各プログラム独自の認定条件等】 ・コア科目から、必修科目を含む「12単位」以上を修得していること。 ・「芸術学実習」は、すでに「本副専攻プログラムが定めた授業科目」から「20単位」以上を修得している者のみ履修可能である。 ・到達度を最終的に測るため、「芸術学実習」の履修時にレポート提出又は、作品の発表を課す。 ・コア科目のうち、属性区分「A」「B」「C」の科目から、それぞれ少なくとも1科目は修得していること。		



■プログラムの名称 「外国語 (ドイツ語)」

概要	ドイツ語の高度な実践的運用能力を涵養する。EU域内の有力言語であるドイツ語に習熟することで、グローバル化する世界に複眼的な情報処理能力をもって対応できるようにする。		
ねらい	ドイツ語の修得に当たっては、言語能力の向上のみを自己目的とするのではなく、併せてドイツの政治、経済、社会、文化など様々な分野への知見を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 標準的なドイツ語を使いこなせ、ドイツ語圏の国々における日常生活に対応できること。 専門書、新聞など辞書を用いて活用できること。(ドイツ語技能検定試験2級レベル) 	副専攻 委員会委員	○田邊 恵子 アンヤ・ホップ
認定条件及び評価の方法	<p>【各プログラム共通の認定条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本副専攻プログラムの「入門科目」を、「第3年次末」までに履修し、その単位を修得していること。 卒業時の総修得単位数が、所属する学部の卒業要件単位数に「12単位」以上を加えたものであること。 本副専攻プログラムが定めた授業科目から「24単位」以上を修得していること。 卒業時の全科目のGPAが、「2.5」以上であること。 <p>【各プログラム独自の認定条件等】</p> <ul style="list-style-type: none"> コア科目から、必修科目を含む「16単位」以上を修得していること。 属性区分「A」の科目から「6単位」以上、「B」の科目から「4単位」以上を修得していること。 		
プログラムの紹介	<p>副専攻ドイツ語を選ぶかどうか迷っている皆さんは、おそらく1年次でドイツ語を勉強されたことでしょう。英語と綴りが同じなようでも発音が違う、名詞に性があったり、格変化が面倒だったり、苦労したことも多かったでしょう。しかし、それにも増して、英語とは異なる言葉の世界、豊かな歴史と文化を有するドイツ語の世界に触れる喜びも大きかったのではないのでしょうか。</p> <p>「なぜドイツ語を学ぶのか？」—ここでは、ドイツ政府が設立した国際交流文化機関ゲーテ・インスティトゥートが挙げる理由をピックアップして紹介しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ビジネスやグローバルなキャリアアップ：日本ではあまりそういうイメージはないかもしれませんが、ドイツ人は旅行好きなので、観光業などの分野でもドイツ語は役立ちます。 学問と研究：ドイツ語は学問の分野で、英語に次いで第二の重要な言語であり、研究開発へのドイツの貢献度は、世界第三位です。 文化的理解：ドイツ語を学ぶことは、様々な出自の人々が暮らす多文化社会ドイツを深く理解することにつながります。 旅行の楽しみ：ドイツ語はドイツのみならず、「ドイツ語圏」と呼ばれるスイスやオーストリアをはじめヨーロッパで広く使用されており、旅行にも役立ちます。 文学、音楽、芸術、哲学の楽しみ：ドイツ語は、ゲーテやカフカやベートーベン、そしてカントの言語です。作品を原書で読んだり、オリジナルの言葉で聞く喜びを味わうことができます。 <p>いかがですか？特に大学生の皆さんにとって、世界有数の学術言語であるドイツ語の魅力は大きいことでしょう。皆さんの専攻が哲学や歴史学や法学であれ、自然科学であれ、ドイツ語の原典にアクセスすることで得られるものは大きいと思います。一年生でドイツ語を学んでいれば、その後、コミュニケーション・ドイツ語やセミナー・ドイツ語など、中級/上級のドイツ語クラスや関連する講義や演習を継続的に履修することで、無理なく副専攻認定を受けることができます。また、協定校であるビーレフェルト大学が開催するサマーコースに参加することで、単位認定も可能になります。</p> <p>せっかく始めたドイツ語を是非続けてみてください。ドイツ語の豊かな世界には、困難な現代を生き抜くための知恵も見つかるはずです。</p> <p>参考 https://www.goethe.de/ins/jp/ja/spr/wdl.html (2023年3月13日閲覧)</p>		



上の図：ドイツ国内のゲーテ・インスティトゥート所在地



■プログラムの名称 「外国語 (英語)」

概要	<p>外国語 (英語) 副専攻プログラムは、卒業時まで、準上級以上の英語運用能力を身につけるためのプログラムです。</p> <p>このプログラムでは、英語による実用的なコミュニケーションスキルの向上に加えて、英語の仕組みや英語圏の文化、社会、経済などに関する理解を深めることを重視しています。多様な文化に対する理解と実践的な英語運用能力を身につけ、様々な分野で国際社会に貢献できる人材を育成します。</p>		
ねらい	<p>外国語 (英語) 副専攻プログラムは、特定の学問分野や職種に限定されることなく、幅広い知識と教養に裏打ちされた高度な英語運用能力を育成することをねらいとしています。</p> <p>そのため本副専攻プログラムでは、英語による実践的なコミュニケーション能力を伸長する授業に加えて、言語、文化に関する幅広い知識を習得してもらうために、英米文学、言語学、経済、ビジネスなど、多様なジャンルの英語に触れるための授業を用意しています。</p>		
到達目標	<p>外国語 (英語) 副専攻プログラムでは、英検の準1級程度、TOEICの700点台に相当する準上級以上の英語運用能力の習得を目標としています。具体的には、日常的な場面で話される英語をおおむね理解し、それに対して応答できること、一般的な文章をほとんど辞書を用いなくて読むことができること、さらに、文法や語彙の選択に配慮しながら、用途に合ったスタイルの英文を書くことができること、などです。</p>	副専攻 委員会委員	○北田 伸一 ハドリー浩美 岡村 仁一
認定条件 及び評価 の方法	<p>【各プログラム共通の認定条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本副専攻プログラムの「入門科目」を、「第3年次末」までに履修し、その単位を修得していること。 ・卒業時の総修得単位数が、所属する学部の卒業要件単位数に「12単位」以上を加えたものであること。 ・本副専攻プログラムが定めた授業科目から「24単位」以上を修得していること。 ・卒業時の全科目のGPAが、「2.5」以上であること。 <p>【各プログラム独自の認定条件等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コア科目から、属性区分「R」科目と「C」科目を含む、「12単位」以上を修得していること。 ・人文学部人文学科 (西洋) 言語文化学主専攻プログラムに所属する学生のうち英語に関わる論題で卒業論文を執筆する者、及び教育学部学校教育員養成課程教科教育コース英語教育専修の学生については、本プログラムによる副専攻認定は行わない。 		
プログラムの紹介	<p>英語をある程度自由に駆使できるということは、グローバル化された世界で大変有利な武器になります。英語で外国の人々と直接コミュニケーションを取る必要がない場合でも、インターネットを利用する際に英語が使えれば、私たちがアクセスできる情報の世界は飛躍的に広がります。インターネットでニュースを見たり聞いたりするだけでなく、教育を受けて、学位を取得することも可能なことは皆さんも聞いたことがあると思います。英語が使えれば、単に視野が広がるというだけでなく、キャリアアップのチャンスをつかむことも可能になるのです。しかし、このようなことを可能にするためには最低でも準上級以上の英語力が必要となります。</p> <p>皆さんの多くの英語力は、中級の下から中級の中といったレベルにあると思います。それを準上級以上に上げるためには、何にもまして英語学習を継続することが重要です。多くの人は、1年次に必修の英語科目を受けただけで英語の勉強を止めてしまいます。英語が大嫌いとか大の苦手という人はしかたありませんが、英語に興味があったり、さらに英語力を伸ばしたいと思っている人は、英語学習を1年次で止めてしまうのは本当にもったいないことです。</p> <p>“Practice makes perfect.”、あるいは“Rome was not built in a day.” (「継続は力なり」) と言います。本副専攻プログラムを活用しながら、皆さんの英語力を総合的に高めていきましょう。</p> <p>外国語 (英語) 副専攻プログラムを修了するためには、24単位取得しなければなりません。授業の準備を考えると大変そうですが、継続という観点から見るとこれでも不十分でしょう。自主的に学習時間を補うように努力してください。実際に科目を履修する際には、ある程度自分の興味やニーズに合わせて授業を選ぶことができます。英会話中心に履修するなら、「中級/上級コミュニケーション英語」や「中級/上級EAP」、「iStep Extension」などのネイティブスピーカーの授業を中心に受講するとよいでしょう。英語圏の文化や英語という言語自体に興味があれば、「英米言語文化基礎演習」、「英米文化論」、「英米言語論」などの授業を中心に聴講することができます。</p> <p>外国語 (英語) 副専攻プログラムが目標とする準上級というレベルは、英検の準1級やTOEICの700点台に相当します。そのレベルに達したかどうかを審査するための最終試験のようなものは今のところ実施していませんが、その代わりに「上級コミュニケーション英語」が必修になっています。「上級コミュニケーション英語」はTOEIC700点台の学生を主に対象とした少人数による上級クラスです。</p> <p>英語学習を一人で継続することはなかなか困難です。皆さんが英語学習を継続し、準上級以上のレベルに到達するのを手助けすることが本副専攻プログラムの大きな目的です。一人でも多くの方がこのプログラムにチャレンジして、副専攻認定という最終ゴールに到達してくれることを期待しています。</p>		



■プログラムの名称 「外国語 (フランス語)」

概要	フランス語の4技能(読む・書く・聞く・話す)のバランスのとれた運用能力の育成と、言語の営みが生み出す文化(政治・法律・経済・歴史・芸術 etc)についての幅広い教養の習得を目指す学習プログラムを提供する。		
ねらい	フランス語の運用能力を養成し、フランス語という言語の営みが生み出す文化に親しむ。		
到達目標	フランス語検定試験2級レベルのフランス語の文章を読み、内容を説明できる。	副専攻 委員会委員	○逸見 龍生 津森 圭一 駒形 千夏
認定条件 及び評価 の方法	<p>【各プログラム共通の認定条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本副専攻プログラムの「入門科目」を、「第3年次末」までに履修し、その単位を修得していること。 ・卒業時の総修得単位数が、所属する学部の卒業要件単位数に「12単位」以上を加えたものであること。 ・本副専攻プログラムが定めた授業科目から「24単位」以上を修得していること。 ・卒業時の全科目のGPAが、「2.5」以上であること。 <p>【各プログラム独自の認定条件等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コア科目から、属性区分「R」科目を含む「12単位」以上を修得していること。 ・属性区分「A(中級レベル)」の科目から「6単位」以上、「B(上級レベル)」の科目から「4単位」以上を修得していること。 		
プログラムの紹介	<p>副専攻フランス語は、主専攻とは別に、皆さんが所属する学部や学科の枠を超えて、フランス語・フランス文化を自主的に学んで行くカリキュラムです。プログラムが提供する学科目の中から、自らの関心に応じて自由に選択することができます。</p> <p>副専攻(フランス語)を選ぶ動機は様々です。ある学生は、自分の専門は法学であるが将来国際公務員として世界で活躍したいという理由で選ぶかもしれません。又、別の学生は、専門が醸造学で、将来ワイナリーの会社を設立したいという理由から、さらに別の学生は、フランス語やフランス文化を学ぶことにより他者や自己をより深く知りたいという理由で選ぶかもしれません。いずれにしても、主専攻で学んだことを別の視点から見つめ直し、自己の関心や進路に応じて視野を広げ、複雑多様な現代社会が提示する課題に対処できる能力を身につけることを目指します。</p> <p>さて、副専攻(フランス語)を選ぶかどうか迷っている皆さんのために、フランス語とはどのような言語かを簡単に紹介しておきましょう。フランス語は、「かつては国際語であったが、現代では英語が国際語である」と言う人がいます。しかしフランス語はいまだに国際語として重要な位置を占めているのです。たとえば国際連合や国際オリンピック委員会をはじめとする、数多くの国際機関(国際電気通信連合、万国郵便連合、国際労働機関、国際司法裁判所、国際刑事裁判所、イスラム諸国会議機構etc.)の公用語として用いられていることがその証です。</p> <p>言語的にはどうでしょうか?フランス語は英語に比べると、綴り字の読み方は難しそうですが、実はとても規則的なのです。読み方の規則を一旦覚えてしまえば、はじめて出会う単語も難なく読むことができるようになります。又、語彙は英語に似ているものが結構多いのが特徴です(正確に言えば、英語がフランス語に似ているのです)。基本的語順はSVO(主語+動詞+目的語)で英語と同じです。とはいえ、自由に使えるようになるまでには、それなりの時間を費やさなければなりません。副専攻フランス語が目指すレベルは、コミュニケーション(〈読む、書く、聞く、話す〉能力)が出来る必要最小限の運用能力です。おおよその目安ですが、日本の公的認定試験なら2級レベル、又2001年に欧州連合評議会が発表したヨーロッパ共通参照枠(CEFR)が掲げるレベルで言えば、B1のレベルです(すなわち6段階の下から第3段階目のレベル)。</p> <p>フランス語とフランス文化は、実に多くの魅力と可能性を持つ言語です。その他の特徴を以下にいくつかまとめておきますので参考にしてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 世界で約1億7千万の人々が用いている。 2) 日本語に入っているフランス語は、芸術(美術、舞踏)、食文化(料理、ワイン)、モード・ファッションなど多分野に渡る。 3) フランス、ベルギー、スイス、カナダ、アフリカの旧フランス領など29カ国で、母国語や公用語として用いられている。 <p>最後に、副専攻フランス語を選ぶか迷っている方は、是非『フランス語で広がる仲間…123人の仲間…』(駿河台出版社)という本のご一読をお勧めします。</p>		



■プログラムの名称 「外国語 (コリア)」

概要	<p>日本と南北コリア (大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国) とは長い間「近くて遠い国」と言われてきたが、今や日本と韓国を年間1000万人が往来する時代であり、経済的・文化的・政治的に多大な影響を及ぼしあう隣国である。世界の言語の中でも日本語と最も共通点の多い朝鮮語を使いこなし、多様な情報を取捨選択する判断力を養うとともに、隣国・隣人として互いを理解し、協調するための歴史的・文化的な知識と、行動力を身につける。</p>		
ねらい	<p>日本という国土に住む私たちは、いやおうなく東アジアおよびそれを取り巻く世界との関係の中で生きている。東アジア特に南北コリアと日本とが良好な関係を築くことは、「世界史」の新たな局面を開く実験となり得るかも知れない。朝鮮語学習および、韓国ほかアジア諸国からの留学生との交流を通じてそのような視点を持ち、異なる文化や歴史に対して、柔軟な発想で対話ができる「主体」となることをめざす。</p>		
到達目標	<p>大学での学修や日常生活について、朝鮮語で紹介できるようになる。辞書を引きながら、新聞やインターネットの記事を読んだり、検索することができる。朝鮮語でメールのやり取りができる (韓国語能力試験2級以上、「ハングル」能力検定試験3級以上のレベル)。</p>	副専攻 委員会委員	○藤石 貴代 山内 民博
認定条件 及び評価 の方法	<p>【各プログラム共通の認定条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本副専攻プログラムの「入門科目」を、「第3年次末」までに履修し、その単位を修得していること。 ・卒業時の総修得単位数が、所属する学部の卒業要件単位数に「12単位」以上を加えたものであること。 ・本副専攻プログラムが定めた授業科目から「24単位」以上を修得していること。 ・卒業時の全科目のGPAが、「2.5」以上であること。 <p>【各プログラム独自の認定条件等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コア科目から、属性区分「R」科目 (必修科目) を含む「12単位」以上を修得していること。 ・属性区分「A」の科目から「5単位」以上、「B」の科目から「6単位」以上を修得していること。 ・「ハングル」能力検定試験3級 (もしくは韓国語能力試験2級) 以上に合格すること。 ・在学中に、新潟市国際交流協会など新潟市 (県) 内の諸団体、もしくは新潟大学主催のコリア関連行事に参加し、レポートを提出すること。 		
プログラムの紹介	<p>新潟市は日本海 (韓国語では東海 (トンヘ) に面した政令指定都市として、大韓民国蔚山 (ウルサン) 広域市 (韓国第2の都市、釜山 (プサン) 広域市に隣接) と2006年に友好姉妹都市協定を結び、朝鮮民主主義人民共和国元山 (ウォンサン) 市との間には、戦前から貨客船が就航 (現在は中断) しています。</p> <p>大韓民国総領事館 (1978年) および大韓航空ソウル-新潟定期便 (1979年) も開設されている新潟市に位置する総合大学として、新潟大学は、北東アジア地域の拠点大学へと発展することを目指しています。</p> <p>「韓流」は、「近くて遠い国」だった韓国と日本 (人の心理的距離) を間違いなく近づけましたが、アメリカ・韓国・日本などの資本主義国家と、社会主義国家であったロシア (ソ連)・中国・朝鮮民主主義人民共和国などとの軍事的な緊張関係 (冷戦構造) が東アジア地域には残存しています。日本と朝鮮民主主義人民共和国は戦後77年が過ぎた現在まで国交を回復できず、米・韓・日の包囲網に触発された拉致や核開発などの不幸な事件が起きました。領土や歴史認識の問題は常に、互いの国家意識、民族感情の対立を激化させます。この悪循環を断ち切る方法は何でしょうか。</p> <p>日本と韓国が1965年に国交回復するまで約20年かかりました。1年に1万人だった往来者数がコロナ禍以前は1日3万人、国交回復が無ければ「韓流」も無かったでしょう。朝鮮民主主義人民共和国、いずれ統一コリアと日本も、いつかはそんな時代が来るはずです。その時、釜山が日本から最も近い韓国の主要都市であると言われるように、新潟は南北コリアから最も近い都市になるかも知れません。その時のために、新潟で生活する私たちが今できること、知るべきことを一緒に考え、行動してみませんか。</p>		



■プログラムの名称 「外国語 (ロシア語)」

概要	日本海に面しているという新潟の地理上の特性に鑑み、ロシア語の分かる地方公務員、基本的なロシア語会話ができる英語教師、ロシアの文化について語ることでできるジャーナリストといった人材を育てるためのカリキュラムである。ロシア語の初級、中級文法とロシア文化の基本的な知識の習得を目指す。		
ねらい	別に専門を持ちながらロシアの人々、ロシアの文化と接していくためのロシア語の力を身につける。また、ロシアの文化にアクセスするためのノウ・ハウを身につける。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 習得語彙数1000以上。形動詞・副動詞まで含めた基本的文法を習得し、活用できる。 2. ゆっくりしたテンポで基本的な会話ができる。 3. 新聞・雑誌の記事等を辞書を使って読解できる。 (指定のロシア語検定2級受験レベル) 	副専攻 委員会委員	○番場 俊 齋藤 陽一
認定条件及び評価の方法	<p>【各プログラム共通の認定条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本副専攻プログラムの「入門科目」を、「第3年次末」までに履修し、その単位を修得していること。 ・卒業時の総修得単位数が、所属する学部の卒業要件単位数に「12単位」以上を加えたものであること。 ・本副専攻プログラムが定めた授業科目から「24単位」以上を修得していること。 ・卒業時の全科目のGPAが、「2.5」以上であること。 <p>【各プログラム独自の認定条件等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コア科目から、属性区分「R」科目(必修科目)を含む「12単位」以上を修得していること。 ・属性区分「A」科目から、「5単位」以上を修得していること。 ・第3年次以降に、必ず、「ロシア言語文化演習」(属性区分「R★」)を「1科目」以上受講すること。 ・認定申請時に課せられる最終レポートを、所定の締切までに提出し、合格すること。 ・人文学部人文学科西洋言語文化学主専攻プログラムに所属する学生のうち、ロシア語に関わる論題で卒業論文を執筆する者については、本プログラムによる副専攻認定は行わない。 		
プログラムの紹介	<p>ロシア語は、たしかに難しいところがある言語です。1年次に苦労した人もいるかもしれませんが、せっかく勉強したロシア語をこれでやめてしまうのは、もったいないと思いませんか？</p> <p>中級・上級のロシア語クラス、さらに関連する講義・演習などでロシア語の勉強を少しずつ継続していけば、所属学部に関わらず、比較的無理なく副専攻認定を受けることができます。学生も教員も少人数ですから、みなさんは主専攻のかたわら、アットホームな雰囲気での学修を続けていくことになります。新潟はロシアとの結びつきが強い都市ですし、ロシア語を一定以上修得した学生は全国でも少数ですから、卒業後の仕事でロシア語の知識を活かす可能性もでてくるでしょう。なにより、日本語とも英語とも異なる論理と情感をもった言語と文化を4年間継続的に学びつづけることによって、みなさんの視野はぐっと広がり、アタマもやわらかくなることでしょう。</p> <p>特別な気負いはありません。気軽に担当教員に相談してみてください。</p> 		



■プログラムの名称 「外国語 (中国語)」

概要	グローバル化する世界で、中国語文化圏の占める位置はますます大きくなっている。中国語の高度な実践的運用能力を涵養すると共に、中国語文化圏についての基礎的知識を有し、広い視野に立つて中国および国際問題とかがわっていける人材を育てる。		
ねらい	中国語の実践的能力を習得し、中国語文化圏のさまざまな事象への理解を深める。		
到達目標	中国の大学における専門課程の授業を理解できる。	副専攻委員会委員	○土屋 太祐 干野 真一 小島 明子
認定条件及び評価の方法	<p>【各プログラム共通の認定条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本副専攻プログラムの「入門科目」を、「第3年次末」までに履修し、その単位を修得していること。 ・卒業時の総修得単位数が、所属する学部の卒業要件単位数に「12単位」以上を加えたものであること。 ・本副専攻プログラムが定めた授業科目から「24単位」以上を修得していること。 ・卒業時の全科目のGPAが、「2.5」以上であること。 <p>【各プログラム独自の認定条件等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コア科目から、属性区分「R」科目（必修科目）を含む「12単位」以上を修得していること。 ・属性区分「A」科目から「6単位」以上、「B」科目から「6単位」以上を修得していること。 ・人文学部人文学科日本・アジア言語文化学主専攻プログラム、もしくは言語文化学主専攻プログラムに所属する学生のうち、中国語学・中国文学分野で卒業論文を執筆するものについては、本プログラムによる副専攻認定は行わない。 		
プログラムの紹介	<p>中国では、2008年の北京オリンピックに引き続き、2010年5月から半年間、上海万博が開幕されました。都市と農村の格差の象徴とも言える農民工の問題、あるいはチベット、ウイグルなどに代表される民族問題、環境問題、など、よくも悪しくも中国を避けてはとおれなくなっているのが今の世界です。</p> <p>ヨーロッパのホテルでは、NHKにかわり、今や中国中央テレビが流されています。ポルトガルに留学した学生は、中華人民共和国以外のあらゆる華人社会からの留学生に囲まれている、と言っていました。インドネシア、マカオ、マレーシア…華人社会の広がりには目を瞠られます。</p> <p>内向き、といわれる日本を飛び出して、あなたも中国語で、この底知れぬ中国および華人社会の世界の扉を開いてみてください。きっと、想像もしていなかったさまざまな面白い世界が開けることでしょう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>北京、火神廟にて。北京大学に留学したTさん</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>冬の北京、后海でそり遊びに興じる</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>北京、孔子廟の門前猫</p> </div> </div>		



重要 本プログラムは、2022年度以降入学者（3年次編入生は2023年度以降入学者）は認定の対象となりませんので、ご注意ください。

■プログラムの名称 「地域学」

概要	<p>この副専攻は、地域社会を主体的に生きる力を身につけるプログラムである。 具体的には新潟地域を対象とし、地域社会を歴史的な深みからとらえることを軸としながら、地域を考えるうえでの多様な視点・方法論を学ぶ。このことを通じて、地域の課題を発見し、その解決の筋道を立案できる人材として成長することをめざす。</p>		
ねらい	<p>地域をめぐる諸問題について調査し、親しみ、考えた経験をもとに、各自の専攻の立場から地域の課題解決に資する人材として成長すること。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域における様々な問題に関心を持ち、課題をともに担う態度を身につける。 2. 地域を歩き、地域を観察し、地域の人や歴史と出会って、自らの手で地域の姿を把握することができる。 3. 自ら設定した地域をめぐる問題を調査し、深めて、課題を明らかにした報告書を作成することができる。 4. 新潟地域のフィールドワークによって、具体的な地域社会の歴史と文化などを深く理解することができる。 	副専攻 委員会委員	○原 直史 中村 元
認定条件 及び評価 の方法	<p>【各プログラム共通の認定条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本副専攻プログラムの「入門科目」を、「第3年次末」までに履修し、その単位を修得していること。 ・卒業時の総修得単位数が、所属する学部の卒業要件単位数に「12単位」以上を加えたものであること。 ・本副専攻プログラムが定めた授業科目から「24単位」以上を修得していること。 ・卒業時の全科目のGPAが、「2.5」以上であること。 <p>【各プログラム独自の認定条件等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コア科目から、属性区分「R」科目（必修科目）を含む「12単位」以上を修得していること。 		
プログラムの紹介	<p>いずれの地域社会も、長い歴史の中で形成されたものであり、複雑に重層した内実を持っている。また今や地域社会は自治体再編などで大きく変動し、そこで暮らす住民は地域の自立など様々な課題と直面している。</p> <p>副専攻「地域学」は、このような地域社会で生きる自覚をたかめ、主体的に地域社会と関わっていく力を身につけ、さらには地域社会の未来を切り開く人材として成長していくことを目指したプログラムである。</p> <p>地域を考えるための視点には様々なものがあるが、本プログラムが主として重視するのは歴史的な視点である。とりわけ必修のR科目では、新潟地域を対象とした地域の過去と現在を、フィールドワークを交えて実地に学び、地域の課題を探るための基礎力を身につける。もちろんそれだけではなく、新潟大学個性化科目の地域研究や地域入門を中心とした、文系・理系にまたがる多様な科目の履修を通して、地域を考える際の多様な視点・方法を学ぶことになる。</p> <p>各学生はもちろんそれぞれの専攻を修める一方でこのプログラムを学ぶわけであるが、本プログラムで学んだ地域の視点をそれぞれの専攻の立場にフィードバックし、相互に関連づけてゆくことで、より深く地域に根ざした思考ができるようになることを期待している。</p>		



■プログラムの名称 「GIS (地理情報システム) リテラシー」

概要	<p>地理情報システム (GIS) は、デジタル化された地図情報を基に、複雑に構成された社会空間 (農地・森林・自然環境なども含む) における諸問題を可視化し、解析し、現実社会における解決方法を策定するためのツールである。本副専攻プログラムでは、GIS基礎科目に加え、GISを活用する全学の既設科目を活用し、幅広い分野におけるGISの基礎理解、ソフトウェアおよびデータの操作、そして研究プロジェクトのデザイン能力を促す教育プログラムを提供する。</p>		
ねらい	<p>地理情報システムは、多様な分野において活用が進められており、多分野を横断する共通プラットフォームとなっている。こうした潮流を背景として、本副専攻プログラムでは、分野横断・融合型の研究プロジェクトに不可欠なリサーチ能力の育成は無論のこと、基本的に時・空間にまたがる問題を扱う自治体やNPO、エリアマーケティング等に携わる民間企業など、様々な機関及び状況においてGISオペレーターとして即戦力となり得る人材育成をねらう。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地理情報システムおよびリモートセンシングに関する概念的理解 2. 理学、農学、工学、医学、人文学、社会学など様々な学術分野における応用例の学習を通じて、GISを用いた研究プロジェクトの設計方法の理解 3. GISのソフトウェアおよび空間データの基礎的な操作方法の修得 4. 身近な問題や自分の専門分野において、GISを用いて研究プロジェクトを実施できる応用力の修得 	副専攻 委員会委員	○奈良間千之 村上 拓彦
認定条件 及び評価 の方法	<p>【各プログラム共通の認定条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本副専攻プログラムの「入門科目」を、「第3年次末」までに履修し、その単位を修得していること。 ・卒業時の総修得単位数が、所属する学部の卒業要件単位数に「12単位」以上を加えたものであること。 ・本副専攻プログラムが定めた授業科目から「24単位」以上を修得していること。 ・卒業時の全科目のGPAが、「2.5」以上であること。 <p>【各プログラム独自の認定条件等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学部、工学部、農学部 of 学生は 全ての属性区分「R1」科目「6単位」を修得すること。 コア科目全体から「10単位」以上を修得すること。 関連科目から「4単位」以上を修得すること。 ・人文学部、教育学部、法学部、経済学部 of 学生は 全ての属性区分「R1」科目「6単位」を修得すること。 属性区分「R2」科目を「4単位」以上を修得すること。 コア科目から「14単位」以上を修得すること。 関連科目から「4単位」以上を修得すること。 ・最終年次に、必修科目「研究プロジェクト演習」を履修し、自主研究レポートを作成しなければならない。本レポートをGISリテラシー副専攻委員会に対して提出して合格することにより副専攻が認められる。ただし卒業論文にGISを活用した場合、GISの観点からこれを要約した概要をもって自主研究レポートとして同科目に提出することが可能である。 		



重要 本プログラムは、2022年度以降入学者（3年次編入生は2023年度以降入学者）は認定の対象となりませんので、ご注意ください。

■プログラムの名称 「法律学」

概要	変革が進む日本の社会にあって、これからは公正・公平で透明なルールによって規律される自由競争・自己責任の時代であるともいわれています。それはまさに法的な見方・考え方がより重要となる時代の到来を意味するものといえます。また、いたるところで多様な紛争、社会問題が絶えず発生しています。その処理、解決、予防を任務とする法律、法律学の機能と課題を、公法、民事法、刑事法及びその他の法律学分野の全般にわたる授業の履修を通じて理解してもらいます。		
ねらい	法制度の概要を理解し、法律の条文に親しむ。		
到達目標	1. 法学の基本的概念や問題点を理解し、分析することができる。 2. 具体的事例に応じて、その事例における問題点や法的解決の可能性を指摘できる。	副専攻 委員会委員	○山本 真敬 栗田 佳泰
認定条件 及び評価 の方法	【各プログラム共通の認定条件】 ・本副専攻プログラムの「入門科目」を、「第3年次末」までに履修し、その単位を修得していること。 ・卒業時の総修得単位数が、所属する学部の卒業要件単位数に「12単位」以上を加えたものであること。 ・本副専攻プログラムが定めた授業科目から「24単位」以上を修得していること。 ・卒業時の全科目のGPAが、「2.5」以上であること。 【各プログラム独自の認定条件等】 ・コア科目から、必修科目を含む12単位以上を修得していること。 ・属性区分「R1」の科目から、1科目（2単位）を修得していること。（選択必修）。 ・属性区分「R2」の科目を、すべて修得していること（必修科目）。 ・コア科目のうち、属性区分「A」の科目から、「1科目（2単位）」を修得していること（選択必修）。 ・コア科目のうち、属性区分「B」の科目から、「2科目（4単位）」を修得していること（選択必修）。 ・コア科目のうち、属性区分「C」の科目から、「1科目（2単位）」を修得していること（選択必修）。 ・ <u>法学部学生を除く。</u>		
プログラムの紹介	法律は我々の日常生活に身近な存在です。法律のことを知らずして生活を送ることは出来ないといっても過言ではありません。 このように本来は身近な存在であるはずの法律に対して、少なからずの人が抵抗感やアレルギーを持っているのもまた事実です。これを解消するためには、「リーガルマインド」（法学的な考え方）、「リーガルリテラシー」（法の仕組みや考え方を理解し、それを活用する力）を身につけることが必要です。 副専攻（法律学）は、以上のような「リーガルマインド」や「リーガルリテラシー」を法学部以外の学生に身につけてもらうために設けられたものです。ここで学ぶ内容を粘り強く学び続けることにより、法化社会への対応力を身につけることが可能となります。		



重要 本プログラムは、2022年度以降入学者（3年次編入生は2023年度以降入学者）は認定の対象となりませんので、ご注意ください。

■プログラムの名称 「政治学」

概要	政治現象は多様性・多面性を持つため、理解しづらい側面があるが、政治現象は私たちの生き方と否応なく深く関わっている。従って、政治現象を総合的に理解し、また批判的にみる眼を養うことが重要であり、本副専攻はそのための能力を養うことを目的とする。		
ねらい	政治学に関連する新聞記事に親しむと同時に、その問題点などを把握することができる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 政治学の基本的概念や問題を理解する視点が習得できる。 2. 政治現象を批判的に分析できる。 3. 時代や地域に固有な政治現象を理解できる。 	副専攻 委員会委員	○山本 真敬 栗田 佳泰
認定条件 及び評価 の方法	<p>【各プログラム共通の認定条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本副専攻プログラムの「入門科目」を、「第3年次末」までに履修し、その単位を修得していること。 ・卒業時の総修得単位数が、所属する学部の卒業要件単位数に「12単位」以上を加えたものであること。 ・本副専攻プログラムが定めた授業科目から「24単位」以上を修得していること。 ・卒業時の全科目のGPAが、「2.5」以上であること。 <p>【各プログラム独自の認定条件等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コア科目から、必修科目を含む「12単位」以上を修得していること。 ・属性区分「R1」の科目から、「1科目（2単位）」を修得していること。（選択必修）。 ・属性区分「R2」の科目を、すべて修得していること（必修科目）。 ・コア科目のうち、属性区分「A」の科目から「4科目（8単位）」以上を、属性区分「B」の科目から2科目（4単位）以上を修得していること（選択必修）。 ・法学部学生を除く。 		
プログラムの紹介	<p>政治現象は多様性・多面性を持っているため、これを理解するためには単に政治に直接関係する科目だけでなく、行政や政策、メディアなど様々な科目を学ぶ必要があります。</p> <p>このため、本プログラムでは、政治学や政治史だけでなく、行政学や政策科学、都市政策や公共政策に関する科目から、ジェンダー論など幅広い分野の科目を用意しています。</p> <p>また、人間は3人集まれば派閥が出来るというように、人々との活動は政治と切り離すことはできないものです。政治学の一分野にはスポーツの政治学というものもあるぐらいです。</p> <p>政治現象は、時代によっても地域によっても異なるもので、これを理解するためには洞察力、批判力、読解力などの一定の素養と粘り強く学び続ける意欲が必要です。</p>		




■プログラムの名称 「経済学」

概要	人類は、生誕と共に、生産と消費を中心とする経済活動をつづけてきた。人間生活の物的基礎をなすこの経済活動は、この間たんに高度化してきただけではない。その社会的あり方は、量的な変化を伴いながら構造的に、また国や地域ごとに個性を持って段階的に発展してきた。副専攻「経済学」では、このような経済について、その理論・歴史・政策・現状を体系的に学ぶことができる。		
ねらい	人間は、1人では生きてゆけない。ゆえに、相互に認め合い、助け合う関係が不可欠である。この副専攻科目では、そうした社会的人間関係を経済の領域から分析し、自己の社会的位置を明らかにすることを課題としている。		
到達目標	1. 経済学的考え方が説明できる。 2. 経済学の分析手法を利用できる。 3. 現代社会の課題を発見し、問題を経済学的に解明することができる。	副専攻 委員会委員	○山崎 剛志 溝口 由己 中田 豪
認定条件 及び評価 の方法	【各プログラム共通の認定条件】 ・本副専攻プログラムの「入門科目」を、「第3年次末」までに履修し、その単位を修得していること。 ・卒業時の総修得単位数が、所属する学部の卒業要件単位数に「12単位」以上を加えたものであること。 ・本副専攻プログラムが定めた授業科目から「24単位」以上を修得していること。 ・卒業時の全科目のGPAが、「2.5」以上であること。		
認定条件 及び評価 の方法	【各プログラム独自の認定条件等】 ・コア科目から、必修科目を含む「12単位」以上を修得していること。 ・形式欄に「演習」とある科目は年度初めに選考を行う。なお、人数等により聴講できないこともある。 ・最終的な評価は、基礎的な「経済理論または経済の現状」等に関するレポートによっておこなう。 ・ 経済科学部学生を除く。		
プログラムの紹介	日本経済新聞を読みこなすための経済知識を身につける。 就職の面接時には経済に関する時事問題を聞かれることが多いため、経済問題に関する理解を深めておくことは、就職活動の準備に他ならない。 我々は日本経済新聞やテレビの報道番組などを通して、世の中で起きている経済情報を得ている。しかしながら、経済現象を理解するには、経済の理論や制度、歴史などの基礎知識が必要不可欠である。グローバル化した現代において、経済現象は変化が速く、また、複雑化する傾向にある。最近の経済現象をみていると様々な疑問が湧いてくる。「ドル円などの為替レートはどのような要因で変動するのか」や「アメリカ経済の変化がどのような影響を世界経済に与えるのか」、「日本の財政赤字は維持可能か」など、例を挙げれば枚挙にいとまがない。次のようなフローを通じて、日本経済新聞を読みこなすだけでなく、経済問題に関して自ら分析して仮説を立てることも可能となる。		
プログラムの紹介			
プログラムの紹介	経済学を学ぶための分野・科目		
プログラムの紹介	経済学は大まかには、理論、政策、歴史、世界経済の4つの分野に分けることができる。本プログラムを通じて、次のような科目を学ぶことができる。それぞれの科目が相互に関連していることが多いため、経済学は学ばば学ぶほど興味が湧いてくることは確かだ。		
プログラムの紹介			
プログラムの紹介	注) 上記の科目は副専攻「経済学」で学ぶことができる一部である。		



■プログラムの名称 「電子・情報科学」

概要	<p>私たちの暮らしは、多くの電気電子情報機器・システムによって支えられており、それらの光の部分として多くの利便性を受けている。その一方で、それらへの「過度の依存」や「過信」、さらには「拒絶反応」という影の部分も生じているため、それらの背後にある「科学技術」を正しく理解しておく必要がある。そこで本副専攻では、特に「電気・電子工学」、「情報工学」、「数理科学」に焦点を絞り、具体的な機器・システムと、その基礎となる物理・化学現象、数理モデルについて理解を深めるためのプログラムを提供する。</p>		
ねらい	<p>電気・電子工学、情報工学、数理科学の各分野の基礎知識を習得し、身近にある電気電子情報機器・システムの動作原理と特性について理解する。さらに、動作原理の基礎となっている物理・化学現象や様々な数理モデルについても理解を深め、機器・システムは「人間がその叡智によって自然現象を巧みに利用して作り上げたもの」であることを正しく理解する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 抵抗、コンデンサ、コイルに生じる電圧・電流の正弦波信号ならびに電気信号による情報伝達・処理について説明できる。 2. 温度センサの原理について理解し、これらを用いた環境制御方法について説明できる。 3. コンピュータとソフトウェアに関する基礎的な用語や概念を説明できる。 4. バーコードを例にして、数理的デジタル処理の応用について説明できる。 5. 木の定義を理解し、その応用について説明できる。 	副専攻 委員会委員	○山家 清之 田中 環 大橋慎太郎 萩原 威志 高橋 俊彦
認定条件 及び評価 の方法	<p>【各プログラム共通の認定条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本副専攻プログラムの「入門科目」を、「第3年次末」までに履修し、その単位を修得していること。 ・卒業時の総修得単位数が、所属する学部の卒業要件単位数に「12単位」以上を加えたものであること。 ・本副専攻プログラムが定めた授業科目から「24単位」以上を修得していること。 ・卒業時の全科目のGPAが、「2.5」以上であること。 <p>【各プログラム独自の認定条件等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該学生の所属する学部が開講する科目（講義番号に「G」が付く科目を除く）のうち、副専攻科目としても認定する単位は最大「12単位」とする。 ・コア科目から、必修科目を含む「12単位」以上を修得していること。 ・コア科目から、必修科目「1単位」、属性区分「A」の科目と「B」の科目からそれぞれ「4単位」以上、合計「9単位」以上を修得していること。 ・必修科目「電子・情報科学」入門は、最初に履修することが望ましい。 ・同一科目名の授業を複数履修はできない。 <p>*工学部工学科人間支援感性科学プログラムの学生は、属性区分「C1」と「C2」の科目を履修できない。 工学部工学科電子情報通信プログラム・知能情報システムプログラムの学生は、属性区分「C2」の科目を履修できない。</p>		
プログラムの紹介	<div style="text-align: center;"> <p>私たちの日常生活を支える「電子・情報科学」技術を正しく理解しましょう</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>電気・電子 情報 数理科学</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>現代の生活に 欠かせません</p>  <p>コンピュータ パソコン 携帯電話</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>家電への応用 福祉機器への応用 農業生産機械への応用</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>快適な生活の実現に役立ちます 豊かな高齢化社会の実現に役立ちます 食料の安全・安定供給に役立ちます</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>これらの機器・システムに用いられている、電子デバイス、電子回路、信号の分析・解析、電子制御システム、デジタル信号処理、コンピュータソフトウェア、情報処理システムなどの基礎を学びます。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>これらの基礎技術や機器動作の原理が分かれば、安心納得して、より良い使用ができます。</p> </div> </div>		



■プログラムの名称 「統合化学」

概要	世の中のものすべて「物質」から出来ており、「物質」の科学である「化学」はあらゆる自然科学の基礎とすることが出来る。しかも「化学」は地球環境・エネルギー繊維、プラスチック、セラミックスなどのあらゆる化学製品、食品、医薬品のみならず電気、通信、情報、自動車などありとあらゆる工業製品の製造に重要である。そこで本副専攻では化学を自然科学として広くとらえることのできる専攻を提供する。		
ねらい	所属部局で学ぶ「化学」を基礎とし、その他の多方面の「化学」に触れることにより、「化学」という学問をより発展的に理解し、応用することを習得する。また、「化学」の社会における役割を総合的に理解する。		
到達目標	1. 「化学」と言う学問を構成する各分野の基礎を学び、基礎的問題が解ける。 2. 「化学」の応用面を多方面の視点から学び、幾つかの分野の応用的問題が解ける。 3. 「化学」の社会における役割を考察し、説明できる。	副専攻委員会委員	○清水 忠明 生駒 忠昭 城 斗志夫
認定条件及び評価の方法	【各プログラム共通の認定条件】 ・本副専攻プログラムの「入門科目」を、「第3年次末」までに履修し、その単位を修得していること。 ・卒業時の総修得単位数が、所属する学部の卒業要件単位数に「12単位」以上を加えたものであること。 ・本副専攻プログラムが定めた授業科目から「24単位」以上を修得していること。 ・卒業時の全科目のGPAが、「2.5」以上であること。		
プログラムの紹介	【各プログラム独自の認定条件等】 ・コア科目から「10単位」以上、関連科目から「10単位」以上を修得していること。		
プログラムの紹介	<p>「化学」という学問は、すべてのサイエンスとテクノロジーの基礎であり中心です。この世の中は全て物質が支配しており、その物質の構造、変化、性質を研究するのが「化学」だからです。したがって「化学」は、理・工・農・医・薬の諸分野にわたって広く学ばれ、活躍しています。本プログラムでは、総合大学としての特徴を生かし、理・工・農各分野におけるエキスパートが、それぞれの得意とする専門分野を背景に「化学」を講じます。</p> <p>「物質の構造と性質」を探求する理学系では、コア科目・関連科目は専門基礎として「化学」の各分野をカバーするように幅広く設定されています。「化学」を総合的に学ぶために、まず「化学基礎 (A、B)」の内容を十分理解した上で、各専門科目を学ぶようになっていきます。基礎から専門まで、幅広く勉強出来ます。</p> <p>モノ作りを主たる研究対象とする工学系は、「化学」の提供する「物質」が無ければ成り立ちません。また全ての分野が精密化しており、そのため分子レベルで物質を扱う「化学」の知識がますます必要になって来ています。機械系の加工技術は現在のところナノレベルですが、いづれオングストロームの分子レベルまで精密化されるでしょう。そのためには「化学」の力が必須です。電気系の電子材料には、すべてにおいて純度の極めて高い化学物質が使われています。講義を通じて工学系における「化学」の重要性の一端を理解していただける事と思います。</p> <p>農学系における「化学」は、基礎、応用両面において最も生命現象に関連しています。生命体の中の化学物質の変化が生命活動を維持しているからです。生命活動は依然として未知や未解明の部分がぎわめて多く存在し、農学系の学生のみならず他分野の学生にとっても魅力ある世界を構成しています。他分野の皆さんも、この分野に触れてみませんか。</p>		



■プログラムの名称 「医学物理学基礎」

概要
 現代の医療はX線CT、MRI、画像誘導放射線治療装置等の物理学を応用して開発された多くの先端技術に支えられており、これら先端技術の役割は益々大きくなってきている。医学物理学は基礎科学である物理学を積極的に医療に生かし、医療の発展に貢献することを目的とする学問分野であり、その専門家である医学物理士は専門知識や技術を生かして医療の現場で診断・治療装置に関する情報を科学的見地から総合的に判断し、適切に医療に反映させる役割を持っている。本副専攻は、放射線治療分野の医学物理士を目指す学生や医学物理学領域の研究開発に関心を持つ学生が、医学物理学の基礎を学ぶためのプログラムである。

ねらい
 将来、医学物理士を目指す学生や、医学物理領域の研究開発分野での活躍を志す学生にとって必要な基礎知識・能力の習得を目的とする。具体的には、医学物理士に要求される能力（数式及び数値処理能力、物理的現象を利用して機械装置を正しく操作する能力、実験や計算結果を正しく分析し判断する能力、論理的思考能力等）を育成する。このために、医学領域の学生にとっては科学的思考能力を培うことができ、また理工学系学生にとっては医学物理領域の基礎的知識を修得できるカリキュラムを構成する。なお、医学物理学分野の大学院への接続を意識した履修科目を配置しており、本プログラムの履修を通して学生諸君が研究・開発能力を身に付け、医学物理学の基礎知識を修得し、より高度な医学物理学領域の専門へ円滑に展開できることを意図している。

到達目標

1. 物理現象を理解し、探究又は応用するための基礎物理学的思考ができる。
2. 放射線物理、放射線診断物理、核医学及び放射線治療学の医学物理の基礎を理解できる。
3. 医学物理学分野の大学院へ進むために必要な基礎学力を身に付ける。

副専攻委員会委員

○大坪 隆
 笹本 龍太
 早川 岳英
 成田 啓廣
 遊佐 洋右
 宇都宮 悟
 泉川 卓司

認定条件及び評価の方法

【各プログラム共通の認定条件】

- ・本副専攻プログラムの「入門科目」を、「第3年次末」までに履修し、その単位を修得していること。
- ・卒業時の総修得単位数が、所属する学部の卒業要件単位数に「12単位」以上を加えたものであること。
- ・本副専攻プログラムが定めた授業科目から「24単位」以上を修得していること。
- ・卒業時の全科目のGPAが、「2.5」以上であること。

【各プログラム独自の認定条件等】

- ・理学部物理学プログラム学生は、コア科目A1は共通認定条件の24単位には含めず、A2、A3、B2、C2から12単位以上を修得すること。
- ・放射線技術科学専攻学生は、コア科目A2は共通認定条件の24単位には含めず、A1、B1、C1から12単位以上を修得すること。
- ・理学部物理学プログラム学生以外の理工系学生は、コア科目A1から6単位以上、A2、A3からそれぞれ1科目以上合計6単位以上を修得すること。
- ・放射線技術科学専攻以外の医歯学系学生は、コア科目A3は副専攻科目の単位には含めない。またA1から6単位以上、A2から6単位以上を修得すること。
- ・原則として自然科学系学生、医歯学系学生を対象とした副専攻プログラムである。

プログラムの紹介

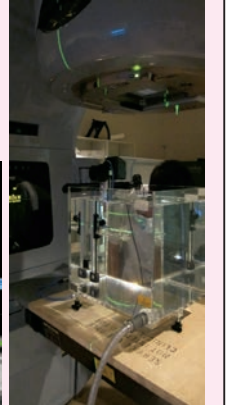
本副専攻「医学物理学基礎」は、放射線などの物理現象を診断・治療の医療に応用する分野として発展してきた「医学物理学」の学問領域への導入を図り、医学物理学分野の大学院への接続を考慮したプログラムです。近年、特にがん治療における放射線治療の役割は増大し、その放射線治療の適切な実施のための専門医療職者として、医学物理士が注目されています。治療分野の医学物理士の業務は、放射線治療計画に用いられるビームデータ測定・管理や、線量分布の最適化、治療装置・関連機器の性能保証、治療精度検証、そして研究開発、教育、患者の医学物理的質問への対応などです。

我が国においては、医学物理士の社会的認知度はまだまだ十分ではありませんが、文部科学省のがんプロフェッショナル養成基盤推進プランの中でも、がん医療の専門家として治療分野医学物理士養成が課題の一つになっています。

本プログラムは医学物理学分野の大学院への接続を視野に入れ、学部レベルにおいて医学物理の基礎を学ぶプログラムです。

本プログラムにおける専門科目履修には、オンライン授業については他主専攻からの受講を認めているものがあります。また、対面授業については五十嵐キャンパス（理学部理学科物理学プログラム）と旭町キャンパス（医学部保健学科）をインターネット回線で結んだ遠隔授業システムを使用するものもあります。詳しくは所属学部キャンパスの副専攻代表教員にお問い合わせください。なお、これらの専門科目受講の際には原則として入門科目「医学物理学入門」の受講を条件とします。

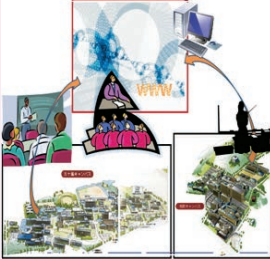
高エネルギー放射線治療装置（リニアック）と水ファントムを用いたビームデータ測定



医学物理士の位置づけ



遠隔授業システム






放射線治療計画装置を用いた肺がん定位照射治療計画の例





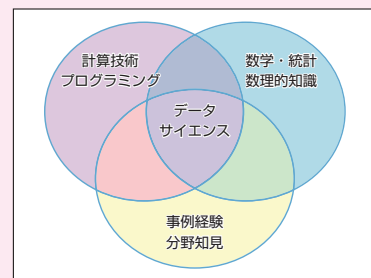
■プログラムの名称 「学校教育実践」

概要	<p>教育を取り巻く環境は複雑化しており、学校現場は高い専門的知識と、教育への熱意を併せ持つ教師を求めている。本プログラムでは、高等学校教諭、中学校教諭を目指す教育学部以外の学生に対して、早期から学校現場のリアルと理論を行き来しながら学ぶ機会を提供する。また、このプログラムを構成するコア科目は新潟県教育委員会、新潟市教育委員会との協働により開発されたものであり、学校・行政・大学が常に連携を取りながら改善を加えている点も特徴的である。</p>		
ねらい	<p>教育学部以外で教員免許状を取得しようとする学生にとって、実際に学校教育の実践に触れるのは4年次の教育実習を待たなくてはならない。このため、在学中の学びが学校現場のリアルと乖離しがちである。この副専攻では、大学入学後の早い段階から教育現場で実践に参加することを通して、現場のリアルを知るだけでなく、大学での学びを充実させる。これにより、高い専門的知識と、学校組織における問題解決能力の資質・能力を身につけることを目指す。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程を支える教職員の取り組みを体験し、理解できる。 2. 学校現場と大学の往還により、教職課程での学びを深めることができる。 3. 学校を支える活動に貢献し、教員になる意欲を高めることができる。 	副専攻 委員会委員	○後藤 康志 笠井 直美
認定条件 及び評価 の方法	<p>【各プログラム共通の認定条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本副専攻プログラムの「入門科目」を、第3年次末までに履修し、その単位を修得していること。 ・卒業時の総修得単位数が、所属する学部の卒業要件単位数に「12単位」以上を加えたものであること。 ・本副専攻プログラムが定めた授業科目から「24単位」以上を修得していること。 ・卒業時の全科目のGPAが、「2.5」以上であること。 <p>【各プログラム独自の認定条件等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コア科目の属性区分「R」の科目から1単位、属性区分「A」の科目から4単位以上、属性区分「B」の科目から2単位、属性区分「C」の科目から3単位以上を修得していること。 ・教職課程を履修し、教員免許状を取得すること。 ・教育学部学生は認定しない。 		
プログラムの紹介	<p>教職課程を履修し、教師を目指す教育学部以外の皆さんにとって、初めて生徒に直接触れあうことができるのは、4年生の教育実習です。3年間、大学の講義室で学ぶだけでなく、実際に1年生、2年生の段階から生徒に触れ合い、学校教育のやりがいや大変さをリアルに知りながら、学んで欲しい。そうした願いから、開設されたのが「学校教育実践」です。このプログラムでは、1年次から教師を取り巻く学校教育活動に触れながら、少しずつ学習支援や授業の経験を踏むことができます。経験を生かし、新潟市学習支援ボランティアや、近くの学校で自主的にボランティア活動を積むこともできます。一足早く学校現場に飛び出し、先生と呼ばれてみませんか？</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>		



■プログラムの名称 「データサイエンス」

<p>概要</p>	<p>様々なデータに内在する本質的構造を理解し数理的思考に基づいて解析・問題解決を行うデータサイエンスは、データ駆動型社会において多様な分野で新たな知見を創出するカギとなることが期待されています。データサイエンスは数理的知識・計算処理技術・問題発見課題解決からなる複合的な領域であり、旧来の学問分野や領域を越えた学習が必要となります。</p> <p>本副専攻では、データサイエンスを構成する各要素に対応した授業科目を満遍なく履修することで知識・技能を分野横断的かつ体系的に学ぶとともに、インターンシップを通して実践的な経験を積むことで、データサイエンティストとしての基礎的な能力を修得します。</p>		
<p>ねらい</p>	<p>データサイエンスに関わる基礎的知識・技能の習熟と実践的経験を通してデータサイエンスの基礎的な能力を修得するとともに、データ駆動型社会において活躍できるための幅広い視野と行動力を身に付ける。</p>		
<p>到達目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. データサイエンスへの社会的要求とその背景について説明できる。 2. データに対しそれが得られた背景や条件をふまえ適切な前処理や分析手法を提案できる。 3. 簡単な前処理（データ結合、データクレンジング、名寄せ）を実施できる。 4. 変数、代入、繰り返し、場合に応じた処理を利用したプログラミングができる。 5. グラフや表などによる可視化表現を適切に使い分けることができる。 6. データのもつ潜在的な意味を読み解き他者に伝えることができる。 	<p>副専攻 委員会委員</p>	<p>○山田 修司 五島 譲司</p>
<p>認定条件及び評価の方法</p>	<p>【各プログラム共通の認定条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本副専攻プログラムの「入門科目」を、第3年次末までに履修し、その単位を修得していること。 ・卒業時の総修得単位数が、所属する学部の卒業要件単位数に「12単位」以上を加えたものであること。 ・本副専攻プログラムが定めた授業科目から「24単位」以上を修得していること。 ・卒業時の全科目のGPAが、「2.5」以上であること。 <p>【各プログラム独自の認定条件等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・属性区分「R1」から【入門科目】を含む2単位、「R2」から2単位修得すること。 ・属性区分「A」「B」「C」「D」「E」「F」からそれぞれ2単位以上修得すること。 ・属性区分「G」から1単位以上修得すること。 ・属性区分「H」から8単位以上修得すること。 		
<p>プログラムの紹介</p>	<p>データサイエンスは最適な数理手法を用いてデータの本質を理解・表現する力を養い、新しい知見を創出する能力を身に付ける横断的な新しい学習領域です。その重要性は、政府の統合イノベーション戦略推進会議が策定した『AI戦略2019』（現『AI戦略2022』継続）に、「文理を問わず、全ての大学・高専生（約50万人卒／年）が、課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得」といった目標が掲げられているように、これからの社会の基盤となる必須知識として位置づけられています。特にデータサイエンス人材の活用は経済産業省が主導しており、社会的需要は今後ますます拡大するでしょう。</p> <p>本副専攻ではデータサイエンスの実践レベルの能力（基礎的知識及び実践的経験）が習得できます。「まずは初級レベルから」「インターンシップや外部発表はちょっと大変かも…」という人は基礎的な内容で構成されるパッケージ型マイナー「データサイエンスリテラシー」もお勧め。</p> <p>レッツ！データサイエンス！ 【数理・データサイエンス・AI教育プログラム https://www.irp.niigata-u.ac.jp/-suurids/news_letter.html】</p>		



4. よくある質問FAQ

始めるときに、よくある質問

Q1 副専攻プログラムの履修開始方法を教えてください。始めるときに申し込みなどが必要ですか？

A 副専攻プログラムの履修開始にあたって、学務情報システムでの「マイナー学修」申し込みが必要です。卒業するまでに認定条件を満たすように、副専攻パンフレット等に掲載されている授業科目を履修してください。

Q2 何の講義からとったらいいのかわかりません。

A まずはガイダンスに参加したり、パンフレットを熟読するなどして、取得を目指す副専攻ではどんな科目を何単位とったらよいか、把握しましょう。それでも、何の講義からとったらいいか疑問が生じることがあるかもしれません。そのような時は、自分の所属する学部・学科の先輩が、取得を目指す副専攻をどのように取得したかの履修例を知ると良いでしょう。学務部教務課連携教育支援事務室窓口にて過去の認定者の履修例を閲覧できますので、是非足を運んでみてください。

また、プログラム代表教員やアカデミック・アドバイザーに相談してみるのも有意義です。代表教員及びアカデミック・アドバイザーの連絡先は39ページを参照ください。

Q3 副専攻プログラムのシラバス（冊子媒体）はありますか。

A 冊子媒体のシラバスはありません。シラバス検索画面 (<https://syllabus.niigata-u.ac.jp/>) からご確認ください。

Q4 副専攻科目の時間割やシラバスはどうやって確認するのですか。

A シラバス検索画面 (<https://syllabus.niigata-u.ac.jp/>) からご確認ください。

Q5 副専攻の科目はCAP制*に含まれるのでしょうか。

A どの科目をCAPに含めるかは、学部によって異なります。お手数ですが、所属学部の学務係に確認してください。

ちなみに、講義番号が「230Q0001」など、『Q』が付く科目（副専攻のためだけに開講されている科目）はCAPには含めず、その他の科目はCAPに含める学部が多いようです。

* 学期（セメスター）ごとに取得できる単位数を制限する制度をCAP制と呼びます。

Q6 副専攻の科目は卒業要件の単位に含まれるのでしょうか。

A どの科目を卒業要件の単位に含めるかは、学部によって異なります。お手数ですが、所属学部の学務係に確認してください。

Q7 入門科目は、全てのプログラムにおいて1年次から履修可能ですか。

A 1年次から履修可能かどうかは、プログラムによって異なります。外国語（ドイツ語）プログラム、外国語（中国語）プログラムについては、2年次以上の学生が対象です。それ以外のプログラムでは、1年

始めるときに、よくある質問

次から履修可能です。また、MOT基礎、芸術学、地域学、法律学、政治学の入門科目は2021年度以前の入学者（編入学生は2022年度以前入学者）のみ履修可能です。

Q8 副専攻パンフレットに掲載されている科目の履修登録の方法がわかりません。

A 通常の科目と同様です。学務情報システムから履修登録してください。

Q9 学務情報システムから、オナーズ・タイム*（以下、H・T）に開講されている副専攻科目（たとえば開講番号230Q1234など、副専攻のためだけに開講されている科目）を履修登録しようと思いましたが、見つけれません。

A 学務情報システムの履修登録画面では、H・Tは2限と3限の間にあります。

* オナーズ・タイムとは、全ての学部・学科の学生が履修できるよう設けられている昼休みの時間帯をいいます。

Q10 H・Tの授業時間を教えてください。

A 11時55分～12時45分です。新潟大学の授業時間割は、39ページをご参照ください。

Q11 副専攻パンフレットを入手したい場合はどうしたらよいですか。

A 学務部教務課連携教育支援事務室で随時配布しています。

Q12 過去の副専攻パンフレットを入手したい場合はどうしたらよいですか。

A 学務情報システムのダウンロードのページからダウンロードできます。

Q13 2023年度入学者ですが、副専攻パンフレットは卒業するまで2023年度の副専攻パンフレットを参照しながら、履修をしたらよいのですか。

A いいえ。副専攻プログラムの履修にあたっては、副専攻プログラムの履修を開始した年度から、卒業年次までに毎年発行される副専攻パンフレットを参照しながら履修を進めてください。副専攻プログラム対象の科目の追加などの、細かい変更があるためです。

たとえば2022年度入学者でも、2023年度（2年次）から副専攻の認定を目指す場合には、2023年度には2023年度副専攻パンフレット、2024年度（3年次）では2024年度副専攻パンフレット、2025年度（4年次）では2025年度副専攻パンフレットを参照しながら、履修を進めてください。

なお、過去のパンフレットは、学務情報システムのダウンロードのページからダウンロードできます。

Q14 オナーズ型マイナーを複数設定することはできますか。

A 主専攻等（皆さんが所属する学部での専門の授業）の履修がおろそかになることがないように、オナーズ型マイナーを2つ以上認定することはできません。ただし、他のマイナー（学修創生型、パッケージ型）であれば、オナーズ型マイナーとあわせて認定することができます。

Q15 先輩の履修例を知りたいのですが、どうすればよいでしょうか。

A 所属する学部・学科によってどうやって履修すればよいかはかなり異なると考えられますので、先輩の履修例は大いに参考になると思われます。学務部教務課連携教育支援事務室にて過去の認定者の履修例を閲覧できます。

Q16 コア科目とはなんですか。

A その副専攻プログラムで学ぶ様々な科目の基礎となったり、関係を理解するための足場になったりするような科目で、「核（コア）」となるような科目です。

Q17 海外研修とはどのようなものですか？

A プログラムによって異なるので、プログラム代表教員に相談してください。また、外国語（英語）、外国語（ドイツ語）、外国語（フランス語）、外国語（コリア）、外国語（ロシア語）、外国語（中国語）では海外研修を含めたガイダンスを実施することがあります。そこでは、海外研修について紹介されることもあるので、機会があれば参加してみてください。

Q18 海外研修の単位認定について教えてください。

A 具体的な方法はプログラムによって異なるので、プログラム代表教員に相談してください。単位認定申請の時期は11月下旬からおおよそ3週間です。具体的な申請時期は、学務情報システムからお知らせします。

*注 すでに単位認定済みのものについては、副専攻「海外研修」としての単位認定申請は認められません。

Q19 海外研修の詳細について知りたいのですが、どうしたらよいでしょうか。

A 副専攻外国語プログラムの単位認定のための海外研修を考えている場合は、必ず渡航前にプログラム代表教員に相談してください。

Q20 就職活動で副専攻をアピールする方法はありますか？

A 副専攻履修証明書を使う方法もあります。

Q21 副専攻履修証明書とはなんですか。

A 副専攻の修得が最終的に証明されるのは、卒業式での「副専攻認定証書」授与後になります。しかし、それでは就職活動などで副専攻を履修していることをアピールできないため、副専攻の履修を大学が公的に証明する「新潟大学副専攻プログラム履修証明書」が用意されています。履修証明書の発行要件を満たした方は、申請があれば随時、学務部教務課連携教育支援事務室で証明書を発行していますので、ぜひ活用してください（8ページ参照のこと）。

Q22 副専攻プログラムの授業科目について、正しく修得できているかどうか不安です。現在の副専攻プログラムで履修済みの科目をチェックできるシステムはありますか。

A 学務情報システムの「マイナー学修（副専攻）関連」ページの「マイナー学修（副専攻）成績情報参照」画面にて履修状況を確認できます。（10ページ参照。）

Q23 副専攻GPAを確認する方法を教えてください。

A 学務情報システムの「マイナー学修（副専攻）関連」ページの「マイナー学修（副専攻）成績情報参照」画面から「マイナー学修（副専攻）成績確認表」ボタンをクリックすることで副専攻GPAを確認できます。（10ページ参照。）

Q24 2022年度副専攻パンフレットに掲載されていなかった科目ですが、2023年度副専攻パンフレットに新たに掲載されていました。この科目を2022年度に履修済みの場合、副専攻科目として認定されますか。具体的には以下のような場合です。

例) 2023年度副専攻パンフレットのあるプログラムに「A講義」が追加されていました。2022年度副専攻パンフレットには「A講義」は掲載されていませんが、2022年度に履修済みの「A講義」は副専攻科目として認めてもらえますか。

A 原則、各年度の副専攻パンフレットに掲載されている科目を副専攻科目として認定します。当該年度に掲載されていない科目は対象になりません。ただし、科目の内容が同一であると副専攻プログラム部会で認められた場合には遡って認定されます。疑問がある場合には、プログラム代表教員または学務部教務課連携教育支援事務室までご連絡ください。

Q25 2022年度副専攻パンフレットに掲載されている科目ですが、2023年度副専攻パンフレットでは科目が削除されていました。この場合、2022年度に履修済みの科目は副専攻科目として無効になりますか。

A 無効になりません。

Q26 「卒業時のGPAが2.5以上であること。」とありますが、これは副専攻科目の成績だけが対象でしょうか？

A いいえ、不合格科目も含む全ての科目が対象です。GPAは学務情報システムから「マイナー学修（副専攻）関連」→「マイナー学修（副専攻）成績情報参照」画面→「マイナー学修（副専攻）成績確認表出力」ボタンをクリックすることで確認できます。（10ページ参照。）

Q27 GPAの計算に不合格科目は含まれますか。

A 副専攻科目だけでなく、全履修科目を対象としたGPAが2.5以上である必要があります。また、不合格科目も含まれます。GPAは学務情報システムの「マイナー学修（副専攻）関連」ページの「マイナー学修（副専攻）成績情報の参照」画面から「マイナー学修（副専攻）成績確認表出力」ボタンをクリックすることでGPAを確認できます。（10ページ参照。）

Q28 科目名が同じで、開講番号が異なる科目は、副専攻の対象科目となりますか？

A プログラム担当教員に確認してください。『積み重ね履修が可能な科目』以外は、対象となりません。

Q29 積み重ね履修が可能な科目で修得した単位は、それぞれ副専攻の対象となりますか？

例) 英米言語文化演習を4科目履修した場合など、全て副専攻24単位に含まれますか。

A 積み重ねが可能な科目と不可能な科目があります。プログラム担当教員に確認してください。

Q30 認定申請時期を教えてください。

A 副専攻の認定申請期間は、卒業年次の12月中旬～1月中旬までのおおよそ1ヶ月の間です。学務情報システムを使って周知しますので、忘れずに確認してください。

Q31 「マイナー学修（副専攻）成績確認表」に認定科目が表示されませんが、どうすればいいでしょう。

A 「マイナー学修（副専攻）成績確認表」には、認定科目は表示されません。そのため、副専攻認定申請時にはマイナー学修（副専攻）成績確認表に手書きで追記してください。

Q32 副専攻の認定にあたって、認定試験のようなものはあるのでしょうか。ある場合、課題はいつ、どのように通知があるのでしょうか。

A 認定試験やレポートがあるプログラムとないプログラムがあります。認定試験やレポートがあるプログラムは、「各プログラム独自の認定条件等」にレポートや課題が記載されています。担当教員等から提出時期などのお知らせを学務情報システム等で通知しますので、それに従ってください。
パンフレットに記載が無いものについては、特に認定試験はありません。

Q33 副専攻認定証書はいつ授与されますか？

A 卒業式に授与されます。

新潟大学副専攻の認定に関する規則

【趣旨】

第1条 この規則は、新潟大学における副専攻の認定等に関し必要な事項を定めるものとする。

【副専攻の目的】

第2条 副専攻は、学部及び学科又は課程の専攻に係る分野以外の特定分野又は特定課題について、授業科目を体系的に編成することにより、学生の多様な知的探究心と資質に即したプログラムを提供し、多元的理解力、統合的理解力等を育成することを目的とする。

【副専攻の区分】

第3条 副専攻は、そのプログラムの編成方法により、分野別副専攻及び課題別副専攻に区分する。

- 2 分野別副専攻のプログラムは、特定の分野の授業科目により編成するものとする。
- 3 課題別副専攻のプログラムは、特定の課題について幅広い分野にわたる授業科目により編成するものとする。
- 4 副専攻として開設するプログラムは、別表のとおりとする。

【認定の要件】

第4条 副専攻の認定を希望する学生は、第3年次末までに当該副専攻プログラムの入門科目として定める授業科目（以下「入門科目」という。）を履修し、その単位を修得しなければならない。

- 2 副専攻を認定することができる学生は、次に掲げる要件を満たすものとする。
 - (1) 当該副専攻プログラムの認定の対象となる別表に定める資格を有し、かつ所定の授業科目について24単位以上を修得していること。
 - (2) 卒業時の総修得単位数が、所属する学部の卒業要件単位数に12単位以上を加えたものであること。
 - (3) 卒業時までに履修したすべての授業科目について、次表の計算方法による1単位当たりの成績の平均値が2.5以上であること。
- 3 第1項の規程にかかわらず、教育基盤機構長（以下「機構長」という。）が必要と認めた場合は、第4年次末までに修得した入門科目を含むことができる。

$$\frac{(\text{各授業科目の単位数} \times (\text{各授業科目の評価} - 50) \div 10) \text{の総和}}{\text{履修した各授業科目の単位数の総和}}$$

備考 この算式において「各授業科目の評価」が60点未満の場合は、「(各授業科目の評価 - 50)」の値を「0」とする。

【副専攻の認定申請】

第5条 副専攻の認定を受けようとする学生は、卒業年次の所定の期日までに副専攻の認定に係る申請を行わなければならない。

【副専攻の認定】

第6条 副専攻の認定は、大学教育委員会の議を経て機構長が行う。

2 機構長は、前項により副専攻の認定を行ったときは、学長に報告するものとする。

【副専攻の認定証書の授与】

第7条 学長は、前条第2項による報告に基づき、副専攻の認定を受けた者に副専攻認定証書（別記様式）を授与する。

【雑則】

第8条 この規則に定めるもののほか、副専攻に関し必要な事項は、別に定める。

別記様式（第7条関係）

第 号	
新潟大学副専攻認定証書	
大学印	○○学部○○学科 卒業 氏 名 年 月 日生
本学の教育課程において優秀な成績を修め副専攻プログラムを修了したことを認定する	
副専攻プログラム ○○○○	
年 月 日	
新潟大学教育基盤機構長 ○○○○	印
新 潟 大 学 長 ○○○○	印

※附則及び第3条第4項の別表を除く。

令和5年度 副専攻プログラム代表教員連絡先

プログラム名	担当者	所属	メールアドレス
環境学	関島 恒夫	農 学 部	sekijima@gs.niigata-u.ac.jp
MOT基礎 (特許・経営及び製品開発基礎コース)	狩野 直樹	工 学 部	kano@eng.niigata-u.ac.jp
芸術学	廣部 俊也	人 文 学 部	shrbe@human.niigata-u.ac.jp
外国語 (ドイツ語)	田邊 恵子	人 文 学 部	keiko@human.niigata-u.ac.jp
外国語 (英語)	北田 伸一	人 文 学 部	kitada@human.niigata-u.ac.jp
外国語 (フランス語)	逸見 龍生	人 文 学 部	t.hemmi@human.niigata-u.ac.jp
外国語 (コリア)	藤石 貴代	人 文 学 部	fujiishi@human.niigata-u.ac.jp
外国語 (ロシア語)	番場 俊	経 済 科 学 部	bamba@econ.niigata-u.ac.jp
外国語 (中国語)	土屋 太祐	経 済 科 学 部	tsuchiya@econ.niigata-u.ac.jp
地域学	原 直史	人 文 学 部	hara@human.niigata-u.ac.jp
GIS (地理情報システム) リテラシー	奈良間千之	理 学 部	narama@env.sc.niigata-u.ac.jp
法律学	山本 真敬	法 学 部	ymmtmsr@jura.niigata-u.ac.jp
政治学			
経済学	山崎 剛志	経 済 科 学 部	tyamazak@econ.niigata-u.ac.jp
電子・情報科学	山家 清之	工 学 部	yambe@eng.niigata-u.ac.jp
統合化学	清水 忠明	工 学 部	tshimizu@eng.niigata-u.ac.jp
医学物理学基礎	大坪 隆 宇都宮 悟	理 学 部 医学部 (保健学科)	tohtsubo@np.gs.niigata-u.ac.jp sutsuno@clg.niigata-u.ac.jp
学校教育実践	後藤 康志	教育基盤機構 全学教職センター	gotoh@ge.niigata-u.ac.jp
データサイエンス	山田 修司	理 学 部	yamada@math.sc.niigata-u.ac.jp
アカデミック・アドバイザー	神田麻衣子	教育基盤機構	kyoumu-minor@ge.niigata-u.ac.jp

授業時間割

昼間コース

時限	授業時間
1 時限	8 時30分～10時00分
2 時限	10時15分～11時45分
H・T	11時55分～12時45分
3 時限	12時55分～14時25分
4 時限	14時40分～16時10分
5 時限	16時25分～17時55分

夜間主コース

時限	授業時間
6 時限	18時05分～19時35分
7 時限	19時45分～21時15分

※ H・T (オナーズ・タイム) は原則として、副専攻等における授業時間帯とする。

令和5年度 副専攻入門科目等一覧

●各プログラム「入門科目」の時間割、開講番号が「23●Q」で始まる科目(いわゆるQ科目*)の時間割を掲載しています。教室は学務情報システムのシラバスから確認してください。

*Q科目とは、副専攻プログラムのために開講されている科目です。

●その他の科目の時間割・教室は、学務情報システムのシラバスから確認してください。

シラバスに教室を掲載していない科目は、その科目を所管している学部(開講番号先頭の英字で区別しています。)の学務係窓口で「時間割表」又は「シラバス(講義概要)」を閲覧してください。

【開講番号の英字と所管している学部】

G(学務部教務課)、H(人文学部)、K(教育学部)、L(法学部)、E(経済科学部)、S(理学部)、M(医学部)、T(工学部)、A(農学部)、X(創生学部)

●変更がある場合には、学務情報システム等からお知らせします。

●集中講義の日程・教室・聴講手続きについては、後日学務情報システム等からお知らせします。

●H・Tとは、オナース・タイム(11:55~12:45)のことです。

プログラム名	開講番号	科目名	学期	ターム	曜限	担当教員(代表)
環境学	230Q9001	環境学入門【入門科目】	第1学期	第1・2ターム	木H・T	関島 恒夫・他
	230Q9003	環境学実習	集中			本間 航介
	230Q9002	環境学演習	第2学期	第3・4ターム	水H・T	則末 和宏・他
MOT基礎 (特許・経営及び 製品開発基礎コース)	230Q9004	特許・経営および製品開発入門【入門科目】	第1学期	第1ターム	月・木H・T	狩野 直樹 他
	230Q9005	特許と技術経営Ⅰ	集中			(非) 吉井 雅栄
	230Q9006	特許と技術経営Ⅱ	集中			(非) 丸山 三孝
芸術学	230Q9007	芸術学入門【入門科目】	第1学期	第1・2ターム	水H・T	廣部 俊也
	230Q9008	芸術学実習	第2学期	第3・4ターム	水H・T	廣部 俊也
外国語(ドイツ語)	230Q9009	ドイツ学研究法【入門科目】	第1学期	第1ターム	火・木H・T	(非) 小林 りり子
外国語(英語)	230Q9010	英語文化研究【入門科目】	第2学期	第3・4ターム	水H・T	北田 伸一
外国語(フランス語)	230Q9011	フランス学研究法【入門科目】	第2学期	第3・4ターム	木H・T	(非) 金子 麻里
外国語(コリア)	230Q9012	コリア学入門【入門科目】	第1学期	第1・2ターム	木H・T	藤石 貴代
	230Q9013	国際交流	集中			(非) 李・森澤
外国語(ロシア語)	230Q9014	ロシア学研究法【入門科目】	第1学期	第1・2ターム	水H・T	番場 俊
外国語(中国語)	230Q9015	中国学研究法【入門科目】	第1学期	第1・2ターム	水H・T	(非) 斯日・肖
地域学	230Q9016	地域学序説入門【入門科目】	第1学期	第1・2ターム	木H・T	原 直史
	230Q9017	地域学実習	不定期開講			原 直史
	230Q9018	地域学演習	第2学期	第3・4ターム	木H・T	原 直史
GIS(地理情報システム) リテラシー	230Q9019	副専攻GISリテラシー入門【入門科目】	集中			(非) 長谷川 普一
	230Q9020	研究プロジェクト演習	第2学期	第3・4ターム	時間外	奈良間 千之
法学	231G7070	人文社会科学入門(法学)	第1学期	第1ターム	水3・4	山本 真敬・他
	232G7074	リーガル・システム	第1学期	第2ターム	月4・木4	内田 千秋・他
政治学	231G7070	人文社会科学入門(法学)	第1学期	第1ターム	水3・4	山本 真敬・他
	232G7074	リーガル・システム	第1学期	第2ターム	月4・木4	内田 千秋・他
経済学	230Q9021	経済学への招待【入門科目】	第2学期	第3ターム	火・金H・T	山崎 剛志・他
電子・情報科学	230Q9022	電子・情報科学入門【入門科目】	第1学期	第1・2ターム	火H・T	山家 清之・他
統合化学	230Q9023	統合化学入門【入門科目】	第2学期	第3ターム	月・木H・T	清水 忠明・他
医学物理学基礎	230Q9024	医学物理学入門【入門科目】	第2学期	第3ターム	水・金H・T	大坪 隆・他
学校教育実践	230Q9025	学校教育実践入門【入門科目】	第1学期	集中		後藤 康志
	230Q9026	学校教育実践入門【入門科目】	第2学期	集中		後藤 康志
データサイエンス	全科目	データサイエンス総論Ⅰ【入門科目】				山崎 達也・他
	233X0009	データサイエンス概説【入門科目、創生学部のみ】	第2学期	第3ターム	火4・金4	熊野 英和
	231G3018 231G3019	エンジニアのためのデータサイエンス入門(力学分野)【入門科目】	第1学期	第1ターム	火4・金4	櫻井 篤 金澤 伸一
	232G3041 232G3042 232G3043	エンジニアのためのデータサイエンス入門(情報電子分野)【入門科目】	第1学期	第2ターム	火3・金3	山崎 達也 飯田 佑輔 佐々木 重信
	231G3020 231G3021	エンジニアのためのデータサイエンス入門(化学材料分野)【入門科目】	第1学期	第1ターム	火4・金4	多島 秀男 中野 智仁
	232G3044	エンジニアのためのデータサイエンス入門(建築分野)【入門科目】	第1学期	第2ターム	月2・木2	大嶋 拓也
	231G3022 231G3023	エンジニアのためのデータサイエンス入門(融合領域分野)【入門科目】	第1学期	第1ターム	月1・月2	前田 義信 白川 展之

問い合わせ先・案内図

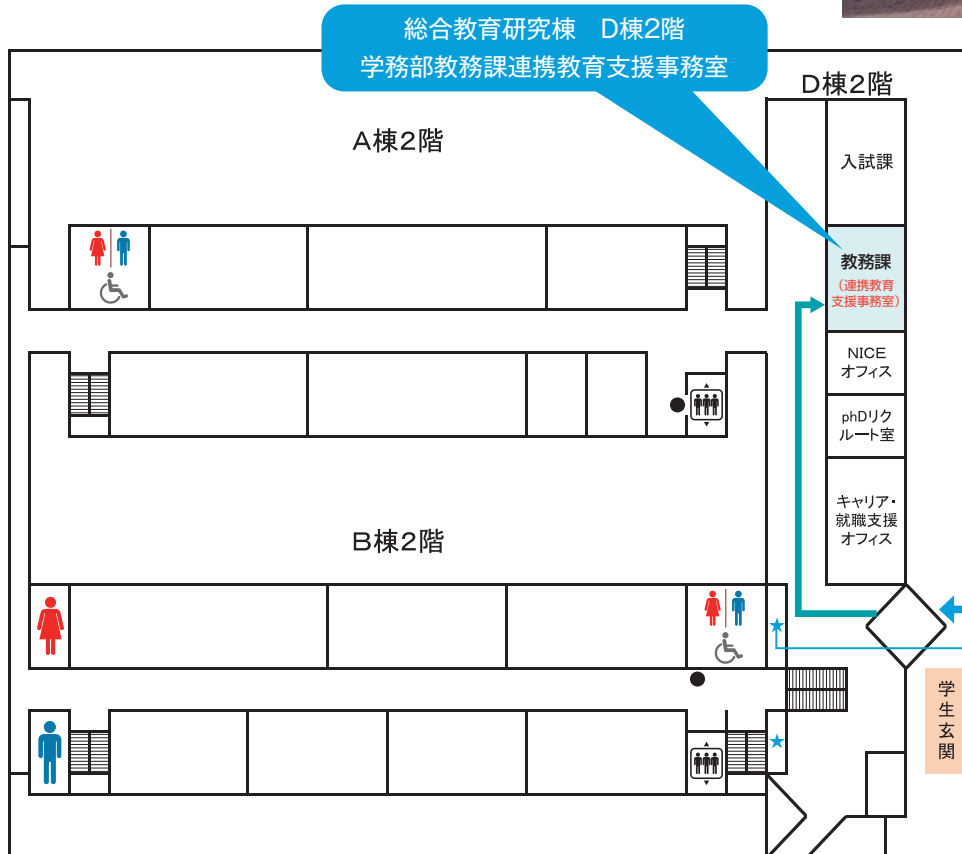
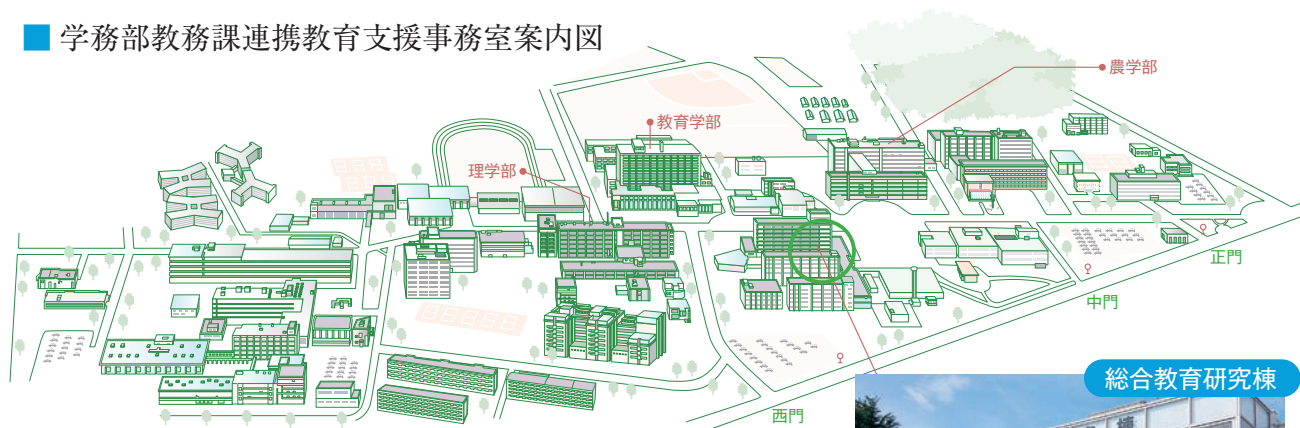
学務部教務課連携教育支援事務室

総合教育研究棟D棟2階

TEL : 025-262-6309

MAIL : kyoumu-minor@ge.niigata-u.ac.jp

学務部教務課連携教育支援事務室案内図



★学務部教務課掲示板：総合教育研究棟B棟 2階 学生玄関正面に設置

問い合わせ先

〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050番地
新潟大学 学務部 教務課 連携教育支援事務室
TEL (025)262-6309
MAIL kyoumu-minor@ge.niigata-u.ac.jp